

令和6年度

履修科目ガイド

理学療法学科

リハビリテーションカレッジ島根

教育内容	授業科目	単 位	履修時間	1年		2年		3年		4年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	心理学	2	30		30							
	日本語表現	2	30	30								
	人間関係学	2	30		30							
	コミュニケーション論	2	30	30								
	統計学	2	30	30								
	生物学	2	30	30								
	物理学	2	30	15	15							
	保健体育(実技)	1	45		45							
	英会話	2	30		30							
	ボランティア論	2	30			15	15					
19単位/ 10科目 合計		19	315	180	105	15	15	0	0	0	0	
専門基礎分野	解剖学Ⅰ(骨学・靭帯学・筋学)	4	60	30	30							
	解剖学Ⅱ(循環器学・内臓学・神経学)	4	60	30	30							
	解剖運動学	2	30	15	15							
	体表解剖学	4	60			30	30					
	生理学	4	60	30	30							
	解剖生理学	2	30	15	15							
	運動学演習	1	30		30							
	運動生理学	2	30			15	15					
	基礎運動学	4	60	30	30							
	関節運動学	4	60			30	30					
	人間発達学	2	30		30							
	33単位/ 11科目 合計		33	510	150	210	75	75	0	0	0	0
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	2	30			15	15				
		病理学	1	15			15					
		内科学	4	60			30	30				
老年学		1	15				15					
整形外科		4	60			30	30					
神経内科学		2	30			15	15					
中枢神経障害学		2	30			30						
小児科学		1	15				15					
精神医学		2	30			15	15					
リハビリテーション医学(薬理・栄養含)		4	60			30	30					
画像診断学		2	30			15	15					
救命医学		2	30			30						
27単位/ 12科目 合計		27	405	0	0	225	180	0	0	0	0	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2	30	15	15			30				
	社会保障学	2	30									
	4単位/ 2科目 合計		4	60	15	15	0	0	30	0	0	0
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	2	30	30							
		理学療法研究法	4	60					30	30		
		6単位/ 2科目 合計		6	90	30				30	30	
	理学療法管理学	理学療法管理運営論	2	30							30	
		2単位/ 1科目 合計		2	30	0	0	0	0	0	30	0
	理学療法評価学	基礎理学療法評価学	4	60	30	30						
		理学療法評価演習	2	60			30	30				
		疾患別理学療法演習	2	60					30	30		
		クリニカルリーズニング論	4	60					30	30		
		動作分析学	4	60					30	30		
	16単位/ 5科目 合計		16	300	30	30	30	30	90	90	0	0
	理学療法治療学	基礎運動療法	4	60			30	30				
		徒手療法	2	60			30	30				
		基礎物理療法	2	30			30					
		物理療法演習	1	30				30				
		ADL論	2	30					30			
		装具学	2	30					30			
		義肢学	2	30							30	
中枢神経治療学		2	30					15	15			
中枢神経治療学演習		2	60					30	30			
運動器疾患治療学		2	30					15	15			
運動器疾患治療学演習		2	60					30	30			
脊髄損傷治療学		4	60					30	30			
小児疾患系治療学		2	30					30				
内部障害治療学		4	60					30	30			
神経筋疾患治療学		2	30						30			
臨床学		4	60							30	30	
スポーツ健康増進学		2	30					15	15			
総合理学療法演習		1	30							15	15	
45単位/ 18科目 合計		42	750	0	0	90	90	255	225	45	45	
地域理学療法学	地域理学療法学	2	30					30				
	生活環境学	2	30					30				
	4単位/ 2科目 合計		4	60	0	0	0	0	60	0	0	0
臨床実習	臨床見学実習	1	45		45							
	臨床評価実習	2	90				90					
	臨床地域実習	2	90						90			
	臨床短期実習	3	135						135			
	臨床総合実習	16	720							360	360	
24単位/ 5科目 合計		24	1080	0	45	0	90	0	225	360	360	
総単位数・時間数及び各学年時間数		177	3600	405	405	435	480	465	600	405	405	
				810		915		1065		810		

目 次

◎1年次 開講科目

心理学	1
日本語表現	2
人間関係学	3
コミュニケーション論	4
統計学	5
生物学	6
物理学	*
保健体育(実技)	7
英会話	8
解剖学Ⅰ(骨学・靭帯学・筋学)	9
解剖学Ⅱ(循環器学・内臓学・神経学)	10
解剖運動学	11
生理学	12
解剖生理学	13
運動学演習	14
基礎運動学	15
人間発達学	16
リハビリテーション概論	17
理学療法概論	18
基礎理学療法評価学	19
臨床見学実習	20

(注) *の講義科目に関しては、担当講師の都合により後日配布します。

◎2年次 開講科目

ボランティア論	21
体表解剖学	22
運動生理学	23
関節運動学	24
臨床心理学	25
病理学	26
内科学	27
老年学	28
整形外科学	29
神経内科学	30
中枢神経障害学	31
小児科学	32
精神医学	33
リハビリテーション医学(薬理・栄養含)	34
画像診断学	35
救命医学	36
理学療法評価演習	37
基礎運動療法	38
徒手療法	39
基礎物理療法	40
物理療法演習	41
臨床評価実習	42

◎3年次 開講科目

社会保障学	43
理学療法研究法	44
理学療法管理運営論	45
疾患別理学療法演習	46
クリニカルリーズニング論	47
動作分析学	48
ADL論	49
装具学	50
義肢学	51
中枢神経治療学	52
中枢神経治療学演習	53
運動器疾患治療学	54
運動器疾患治療学演習	55
脊髄損傷治療学	56
小児疾患系治療学	57
内部障害治療学	58
神経筋疾患治療学	59
スポーツ健康増進学	60
地域理学療法学	61
生活環境学	62
臨床地域実習	63
臨床短期実習	64

◎4年次 開講科目

臨床学	65
総合理学療法学演習	66
臨床総合実習	67

1 年次

開講科目

授業科目名	心理学			(フリガナ) 担当教員名	イトハラ 糸原 ヒロツグ 弘承
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
色々な心理学の分野からのトピックをご紹介します。					
GIO (一般目標)					
心理学の基礎的な知識を身につけることができること。					
SBO (行動目標)					
心理学全般を概観し、日常生活を心理学的な視点から楽しめること。					
授業回数	授業内容				
第1回	心理学とは				
第2回	知覚心理学とは①				
第3回	知覚心理学とは②				
第4回	認知心理学とは①				
第5回	認知心理学とは②				
第6回	学習心理学とは①				
第7回	学習心理学とは②				
第8回	発達心理学とは①				
第9回	発達心理学とは②				
第10回	パーソナリティ心理学とは				
第11回	臨床心理学とは①				
第12回	臨床心理学とは②				
第13回	犯罪心理学とは				
第14回	災害心理学とは				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
筆記試験 100%					
教科書					
教科書は指定しません。講義は配布するレジュメ等で行います。					
参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・鹿取廣人、杉本敏夫、鳥居修晃、河内十郎 (編集) : 心理学. 東京大学出版会, 2020 ↑鹿取先生は恩師です。ちょっとかたいかな… しかし、「正統派」という印象です。 ・田中正人 (著)、齊藤勇 (監修) : 図解 心理学用語大全. 誠文堂新光社, 2020 ↑イラストが多く、読みやすいです。専門書がある大きめの書店なら在庫があるかもしれません。 					
実務経験に関する内容					
公認心理師、言語聴覚士、心理学検定1級等の資格を有する講師により、心理学的な知見を概観します。少しでも心理学ワールドに興味を持っていただけると嬉しいです。					

授業科目名	日本語表現			(フリガナ) 担当教員名	フクダ カズコ 福田 和子
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
古事記神話を読む 小論文を書く 毎時間小テスト					
GIO (一般目標)					
古事記神話の概要を理解する 論理的思考をする					
SBO (行動目標)					
神話で語られている考え方が現代に活着ていることを説明できる 論理的思考に基づいて小論文を書いてみる					
授業回数	授業内容				
第1回	古事記について 国生み ・ 神生み				
第2回	天岩戸				
第3回	ヤマタのオロチ退治				
第4回	因幡の白兔				
第5回	オオクニヌシの国作り・国譲り				
第6回	天孫降臨				
第7回	竜宮伝説				
第8回	まとめ				
第9回	論理的思考力				
第10回	言い換える力①				
第11回	言い換える力②				
第12回	比べる力				
第13回	たどる力				
第14回	小論文①				
第15回	小論文②				
成績評価基準					
定期テスト85% 小テスト(提出) 15%					
教科書					
ふわこういちろう 著,戸矢学 監修:愛と涙と勇気の神様ものがたり まんが古事記. 講談社, 2015					
参考書					
実務経験に関する内容					

授業科目名	人間関係学			(フリガナ) 担当教員名	オオニシケイコ 大西 恵子
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
前期で学んだコミュニケーションの基礎を人間関係、マナーの場面で応用実践します。					
GIO (一般目標)					
円滑な人間関係を構築するために自分自身について深く知り、自分の強みを発見しながら対人関係の様々な場面での関わり方を習得します。					
SBO (行動目標)					
患者さんや病院・施設の方(医師、看護スタッフ、施設スタッフ)との関わり方のコツを習得します。					
授業回数	授業内容				
第1回	はじめに 「自分自身についての振り返り」「社会人に求められる能力」				
第2回	〃				
第3回	ビジネスマナーの重要性と基本スキルの理解				
第4回	〃				
第5回	ビジネスマナーの実践 ①話し方、聞き方の復習				
第6回	〃 ②インタビュー実習				
第7回	ビジネスマナーの実践 報告・連絡・相談のポイント				
第8回	〃				
第9回	ビジネスマナーの実践 電話対応の基本				
第10回	〃				
第11回	総合演習1. 施設(病院)への訪問・見学依頼～見学				
第12回	〃 グループワーク発表準備				
第13回	総合演習2. グループ発表～お礼状の書き方				
第14回	〃				
第15回	まとめ レポート試験「人間関係学を通して学んだこと」				
成績評価基準					
終了時レポート 50%					
毎回提出していただくレポート(講義中に作成) 50%					
教科書					
「人間関係学」テキスト 講義ごとに配布するプリント。					
参考書					
実務経験に関する内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブ・コミュニケーションの研修、講義を28年担当している講師です。 ・コミュニケーションのスキルだけでなく、自己受容、自己開示、主体性を育むことにこの講義がつながることを願い担当させていただきます。 					

授業科目名	コミュニケーション論			(フリガナ) 担当教員名	オオニシケイコ 大西 恵子
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
セラピストは、人と関わることを仕事にしています。専門スキル・知識とともにコミュニケーション力が求められます。仕事や人間関係を円滑にするコミュニケーションの基礎を学びます。					
GIO (一般目標)					
一方的に主張したり、伝えたいことを我慢するのではなく、「気持ちよくお互いがやりとりできる関係」を目指すために必要な伝え方のコツ・聞き方のコツを学び、習得します。					
SBO (行動目標)					
伝えたいことを伝え合うために「枠組のちがい」に気づくことができる。 「伝わる」ように話す。相手の伝えたいことを理解するために聞くことができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	はじめに①講義の内容、すすめ方について自分自身の関わり方(ふり返し)				
第2回	" ②お互いのちがいを認識することがコミュニケーションの発展につながる				
第3回	コミュニケーションのコツ1.「伝わるように話す」				
第4回	"				
第5回	コミュニケーションのコツ2.「理解するために聞く」				
第6回	"				
第7回	実習 インタビューと他者紹介				
第8回	"				
第9回	コミュニケーションのコツ3.「頼む」「断わる」「批判を受ける」				
第10回	"				
第11回	コミュニケーションのコツ4.「感情の扱い方」～イライラ・モヤモヤとのつきあい方				
第12回	"				
第13回	コミュニケーション論 ふりかえり				
第14回	"				
第15回	まとめ レポート試験「コミュニケーション論を通して学んだこと」				
成績評価基準					
終了時レポート 50%					
毎回提出していただくレポート(講義中に作成) 50%					
教科書					
「コミュニケーション論」テキスト					
講義ごとに配布する資料					
参考書					
実務経験に関する内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブ・コミュニケーションの研修、講義を28年担当している講師です。 ・コミュニケーションのスキルだけでなく、自己受容、自己開示、主体性を育むことにこの講義がつながることを願い担当させていただきます。 					

授業科目名	統計学			(フリガナ) 担当教員名	ミカモト 三家本 タツヤ 竜也
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
パソコンは、学生の時も社会人になっても、不可欠な道具です。 楽しく学習しましょう。					
GIO (一般目標)					
多種多様な大量の情報から必要なものを抽出・分析して、「真理」を探求し、その結果を正しく「発信」する技能を習得する。					
SBO (行動目標)					
①Word、Excelの基本操作ができる。 ②パワーポイントが作成できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	パソコンの基本操作				
第2回	ファイル管理				
第3回	Word 基本操作・文字入力				
第4回	Word 文章作成・修飾・編集				
第5回	Word 表の作成・印刷				
第6回	Word 表現力のアップ				
第7回	Word 段組み				
第8回	Power Point 基礎				
第9回	Excel 関数(1)				
第10回	Excel 関数(2)				
第11回	Excel グラフ機能の活用				
第12回	Excel データベース機能の活用				
第13回	Excel ピボットテーブルとピボットグラフ機能				
第14回	Excel マクロ機能				
第15回	総合演習				
成績評価基準					
演習試験	50%				
課題	50%				
教科書					
よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 FOM出版					
参考書					
医療・看護系のための情報リテラシー (東京出版)					
実務経験に関する内容					
企業でプログラミングに従事してきた講師により、データの集積と検索、及び分析の複雑な手操作を自動化する方法を教育する。					

授業科目名	生物学			(フリガナ) 担当教員名	タキグチ 滝口 モト ユキ 素行
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
生物学の内容のうち、福祉に関係ありそうなトピックをとり上げる					
GIO (一般目標)					
福祉を学ぶ上で、その基礎として必要な生物学的内容を幅広く学ぶ態度、意欲を育てる					
SBO (行動目標)					
出席し、授業に参加する レポートは必ず提出する					
授業回数	授業内容				
第1回	授業概要・評価方法				
第2回	感染症とその歴史				
第3回	免疫のしくみ				
第4回	メンデル遺伝				
第5回	分子遺伝				
第6回	ゲノム編集				
第7回	ips細胞				
第8回	脳1 心のはたらき				
第9回	脳2 脳はだまされる				
第10回	脳3 ブレイン、マシン、インターフェイス				
第11回	進化心理学、バイオフィリア				
第12回	進化1 地球の歴史				
第13回	進化2 ヒトの歴史				
第14回	宇宙生物学 (アストロバイオロジー)				
第15回	生物多様性				
成績評価基準					
レポート	100%				
教科書					
プリント配布					
参考書					
実務経験に関する内容					

授業科目名	保健体育（実技）			（フリガナ） 担当教員名	タバラ タダアキ ヤマモト タカヒコ 田原 忠明・山本 圭彦
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	演習	単位数	1	時間数	45
授業概要					
自らの健康に留意し、仲間との関わりを豊かにしてスポーツに自主的に親しむ。（田原）					
GIO（一般目標）					
他人と比較することなく、自らの動きに意識させ、自らの身体をしっかり動かし、自分と向き合う時間を創る。（田原）					
SBO（行動目標）					
自ら見て、聞いて、考え、判断し、行動することで 自らの技術の上達、成長を体感・体得する。（田原）					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション・アンケート・アイスブレイク等（田原）				
第2回	軽スポーツ（田原）				
第3回	軽スポーツ（田原）				
第4回	軽スポーツ（田原）				
第5回	軽スポーツ（田原）				
第6回	軽スポーツ（田原）				
第7回	軽スポーツ（田原）				
第8回	オリエンテーション・アンケート等（田原）				
第9回	軽スポーツ（田原）				
第10回	軽スポーツ（田原）				
第11回	軽スポーツ（田原）				
第12回	軽スポーツ（田原）				
第13回	軽スポーツ（田原）				
第14回	軽スポーツ 1年間の自己評価（田原）				
第15回	筋力・体脂肪測定(山本)				
第16回	ストレッチ（山本）				
第17回	ストレッチ（山本）				
第18回	筋力トレーニング（山本）				
第19回	筋力トレーニング（山本）				
第20回	体育祭（山本）				
第21回	体育祭（山本）				
第22回	球技大会（山本）				
第23回	球技大会（山本）				
成績評価基準					
関心・意欲・態度、技能					
教科書					
参考書					
実務経験に関する内容					
田原：中学校、高等学校教諭免許（保健体育）を有し、保健体育の指導を行ってきた教員が担当する。					

授業科目名	英会話			(フリガナ) 担当教員名	ハラダ 原田 レネー
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
Reviewing basic English Communication Skills. 英会話の練習。簡単な文法でコミュニケーションできるようになります。					
GIO (一般目標)					
Few therapists use English conversation at work so why should they study English conversation? Communicating only in English is like a handicap for some. It's frustrating and it's hard. It's much like rehabilitation. The patient often wants to do something but cannot do so freely. Being in an English only environment, students learn how their future patients will feel. They learn that by trying and effort, they can do it.					
SBO (行動目標)					
①簡単な日常英会話ができるようになる。 ②簡単な英文を理解できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	Spelling Practice	綴りの練習	Greetings/ Introductions 挨拶 ・ 紹介		
第2回	Numbers pronunciation	数字の発音			
第3回	verb 'to be' + adjectives	be 動詞 + 形容詞	Descriptions 描写		
第4回	Making sentences	短い文章の作成 主語 + 動詞 + 目的語	Building blocks of English 英語の基本		
第5回	Prepositions	前置詞	Where are you?		
第6回	Adverbs of frequency	頻度の副詞	sometimes/ usually/ never		
第7回	Asking questions Do you + 動詞	do動詞を使って疑問の作成	クイズ作成		
第8回	Asking questions Are you + 形容詞・補語	be動詞を使って疑問の作成	クイズ		
第9回	There is/ There are	～がある・いる	Descriptions of places 場所を描写		
第10回	Imperatives	命令文	薬局のロールプレー		
第11回	Imperatives + Review prepositions	命令文	道を教える事		
第12回	Abilities	can + 動詞	出来る・出来ない		
第13回	Present progressive	be動詞 + ~ing			
第14回	Near future	be動詞 + ~ingの復習	Making and appointment 近い将来		
第15回	総合演習				
成績評価基準					
20% participation	積極的参加度				
20% quiz	小テスト				
60% final exam	最終試験				
教科書					
英会話 I English Conversation for Therapists 英和英辞書*					
参考書					
実務経験に関する内容					
英会話教師による基本的な英会話について、ロールプレーを交えて教育を行う。					

授業科目名	解剖学 I (骨学・靭帯学・筋学)			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ ヤマモト ケン 石川慎二・山本健	
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修	
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60	
授業概要						
前期は主に骨学・骨の連結について講義を実施する。後期は骨の連結に加えて筋学に関する講義を行う。						
GIO (一般目標)						
骨・関節・靭帯・筋の構造をイメージできるようになる。						
SBO (行動目標)						
習得すべき知識量は膨大なので毎回復習をすること。						
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容	
第1回	脊椎・胸郭の解剖	石川	}	第16回	骨盤連結	山本
第2回	脊椎・胸郭の解剖			第17回	骨盤周囲 殿部の筋	
第3回	付属性骨格 (下肢帯) の解剖			第18回	自由下肢連結	
第4回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第19回	自由下肢の筋	
第5回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第20回	自由下肢の筋	
第6回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第21回	肩関節・上肢帯の筋	
第7回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第22回	肩関節・上肢帯の筋	
第8回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第23回	自由上肢連結	
第9回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第24回	自由上肢の筋	
第10回	付属性骨格 (上肢帯) の解剖			第25回	自由上肢の筋	
第11回	付属性骨格 (上肢) の解剖			第26回	頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第12回	付属性骨格 (上肢) の解剖			第27回	頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第13回	付属性骨格 (上肢) の解剖			第28回	頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第14回	脊柱・頭蓋骨・胸郭の連結			第29回	腹部・胸郭の筋	
第15回	上肢帯の連結			第30回	腹部・胸郭の筋	
成績評価基準						
前・後期それぞれ筆記テストを実施する。 筆記試験100%						
教科書						
奈良勲,鎌倉矩子 監修: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第5版, 医学書院, 2020 渡辺正仁 監修: PT・OT・STのための解剖学. 廣川書店, 2013						
参考書						
実務経験に関する内容						
本科目はオムニバスである。医療機関等で理学療法士、作業療法士として従事してきた教員が骨・筋・関節・靭帯など筋骨格系の講義を行う。骨模型等を用いた実践的な教育を行う。						

授業科目名	解剖学Ⅱ（循環器学・内臓学・神経学）			(フリガナ) 担当教員名	ワタナベ 渡邊	タツノウ 達三
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修	
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60	
授業概要						
身体の内臓および神経系の構造を全般にわたり学習する。						
GIO（一般目標）						
①人体の構造をはたらきと関連づけて理解できるようになること。 ②学習終了時に循環器・神経の名称や位置を習得し、各組織の働きについても理解が可能となり、2年の疾患、病気の理解する事業に生かされること。						
SBO（行動目標）						
講義の中で、教科書内の図や文章から各身体部位の構造を習得する。演習問題も実施する。						
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容	
第1回	細胞とは、組織学：上皮、腺、結合組織の構造			第16回	感覚器系：視覚器・平衡感覚器	
第2回	組織学：骨、軟骨の構造			第17回	内分泌系：ホルモン分泌組織・器官	
第3回	神経系：神経系総論			第18回	脊髄	
第4回	筋骨格系：筋総論			第19回	脳幹	
第5回	循環器系：心臓			第20回	中脳・小脳・間脳	
第6回	呼吸器系：鼻腔・気管・気管支			第21回	大脳①	
第7回	呼吸器系：肺			第22回	大脳②	
第8回	消化器系：口腔・食道			第23回	脳神経①	
第9回	消化器系：胃・小腸・大腸			第24回	脳神経②	
第10回	消化器系：胆嚢・肝臓・膵臓			第25回	脳の血管	
第11回	泌尿器系：腎臓その他の泌尿器			第26回	脊髄神経①	
第12回	男女生殖器：男女生殖器の構造と男女の違い			第27回	脊髄神経②	
第13回	循環器系：全身の血管			第28回	運動・感覚の伝導路	
第14回	循環器系：静脈・リンパ			第29回	自律神経	
第15回	感覚器系：皮膚の感覚・嗅覚器・味覚器			第30回	発生学：人体発生学	
成績評価基準						
定期試験 100%						
教科書						
坂井建雄,岡田隆夫,宇賀 貴紀 著：人体の構造と機能[1] 解剖生理学. 第11版, 医学書院, 2022						
参考書						
実務経験に関する内容						
大学で解剖学を修得した 総合内科専門医、神経内科専門医 である講師が担当する						

授業科目名	解剖運動学			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ 長住 タツキ 達樹
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
日本人に多い疾患を解剖学・運動学を中心に学ぶ。					
GIO (一般目標)					
肩関節周囲炎,腰椎椎間板ヘルニア,変形性関節症の概要を理解し説明できる。					
SBO (行動目標)					
肩甲上腕リズムについて説明できる。FTAと頸体角の違いを説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	肩関節周囲炎について				
第2回	肩関節 (総論・靭帯)				
第3回	肩関節 (関節運動)				
第4回	急性腰椎捻挫について				
第5回	腰椎椎間板ヘルニアについて				
第6回	脊柱 (総論・靭帯)				
第7回	脊柱 (関節運動)				
第8回	変形性股関節症について				
第9回	股関節 (総論・靭帯)				
第10回	股関節 (関節運動)				
第11回	股関節 (機能解剖)				
第12回	変形性膝関節症について				
第13回	膝関節 (総論・靭帯)				
第14回	膝関節 (関節運動)				
第15回	膝関節 (機能解剖)				
成績評価基準					
前期・後期に定期試験を実施する。60点未満は再試験を実施する。					
教科書					
中村隆一,齋藤宏,長崎浩 著:基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版, 2003					
適宜プリント配布					
参考書					
実務経験に関する内容					
多くの病院やクリニックで勤務経験がある。入院・外来で担当した疾患を中心に解剖学・運動学を中心に提供できる。					

授業科目名	生理学			(フリガナ) 担当教員名	ハシモト ミチオ マツザキ ケンタロウ 橋本 道男・松崎 健太郎 ヤマシロ ヤスヒロ 山城 安啓
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
生理学はただ覚えるだけの学問ではありませんので、難しいといわれますが、良く考えて一度理解するとその面白さが分かると思います。がんばって学習してください。(橋本・松崎)					
復習を中心とした勉強をお願いします。(山城)					
GIO (一般目標)					
ヒトの生理的機能の基本的事項について個体レベルを中心に学ぶ。					
SBO (行動目標)					
①人体の基本的構造と機能を理解する。					
②神経と筋肉の基本的機能・神経系の機能および感覚器について理解する。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	イントロダクション、代謝		第16回	生理学の基礎 1	
第2回	体温の調節、発熱とはなにか		第17回	" 2	
第3回	消化器系の概要		第18回	" 3	
第4回	消化、吸収のしくみ		第19回	" 4	
第5回	循環系の概要		第20回	筋肉の基本的機能 1	
第6回	心臓と血管の働き		第21回	" 2	
第7回	血圧の調節		第22回	" 3	
第8回	血液のはたらき、凝固系		第23回	神経の基本的機能 1	
第9回	呼吸のしくみ		第24回	" 2	
第10回	酸素、二酸化炭素の運搬		第25回	神経系の機能 1	
第11回	尿の生成と排泄		第26回	" 2	
第12回	体液とその調節		第27回	感覚の生理学 1	
第13回	内分泌系の概要		第28回	" 2	
第14回	ホルモンの調節と役割		第29回	" 3	
第15回	生殖のしくみ		第30回	" 4	
成績評価基準					
筆記試験 (橋本・松崎)					
復習小テスト 又は レポート (山城)					
本試験 (山城)					
教科書					
坂井建雄,岡田隆夫,宇賀 貴紀 著:人体の構造と機能[1] 解剖生理学. 第11版, 医学書院, 2022 (橋本・松崎)					
貴邑富久子,根来英雄 著:シンプル生理学. 改訂第8版, 南江堂, 2021 (山城)					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。臨床検査技師免許を有する講師や、日本生理学会、日本生気象学会に所属する講師により、生理学の基本的知識について講義する。					

授業科目名	解剖生理学			(フリガナ) 担当教員名	ナカシマ 中島 クルミ 久瑠美
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
基本的疾患の解剖学と生理学を実施します。					
GIO (一般目標)					
遅発性筋痛、心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病の概要を理解し、説明できる。					
SBO (行動目標)					
筋の滑走説が説明できる。心臓の刺激伝達系が説明できる。拘束性換気障害と閉塞性換気障害の違いについて説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	遅発性筋痛症について				
第2回	筋の滑走説および筋収縮について				
第3回	筋力について				
第4回	心筋梗塞について				
第5回	心臓についての解剖 (血管・名称)				
第6回	心臓の刺激伝達系について				
第7回	心電図について				
第8回	慢性閉塞性肺疾患について				
第9回	肺について				
第10回	呼吸について				
第11回	拘束性換気障害と閉塞性換気障害について				
第12回	糖尿病について				
第13回	インスリン・膵臓の働きについて				
第14回	メタボリックシンドロームについて				
第15回	運動療法について				
成績評価基準					
前期・後期に定期試験を実施する。60点未満は再試験を実施する。					
教科書					
中村隆一, 齋藤宏, 長崎浩 著: 基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版, 2003					
適宜プリント配布					
参考書					
実務経験に関する内容					
病院、介護老人保健施設等で勤務し多様な疾患に対してきた。その経験をもとに生理的なメカニズムや理学療法の考え方の講義を行う。					

授業科目名	運動学演習			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ トシ 上 年
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義及び演習	単位数	1	時間数	30
授業概要					
運動学で学んだことの復習を含め、運動器の構造および機能について、「解剖学」、「生理学」、「運動学」で修得した知識をもとに演習等を通して身体運動学に関する理解を深める。					
GIO (一般目標)					
運動器における筋活動および姿勢等の知識を深める。					
SBO (行動目標)					
演習を通して科学的な思考を身に付けるとともに、運動器の構造および機能について説明できること。くわえて骨の運動学と解剖学的複合的な仕組みを理解し、代表的な疾患における運動学的な見解が出来る。					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション、力学の基礎、運動学の基礎、運動器の構造と機能など				
第2回	下肢および下肢帯の機能解剖				
第3回	股関節：機能解剖学				
第4回	股関節：股関節障害の捉え方（整形外科的検査法の意義、筋の特性など）				
第5回	膝関節：機能解剖学				
第6回	膝関節：膝関節障害の捉え方（靭帯損傷・半月板損傷 など）				
第7回	足関節：機能解剖学				
第8回	足関節：足関節障害の捉え方（捻挫、アキレス腱断裂 など）				
第9回	肩甲帯、肩関節：機能解剖学 肩甲帯、肩関節：機能解剖学				
第10回	肩甲帯、肩関節：肩関節障害 関節可動域制限				
第11回	肘関節、前腕：機能解剖学 肘関節、前腕：肘関節障害（代表的な疾患）				
第12回	手・指関節：機能解剖学 手・指関節：手・指関節障害（代表的な疾患・変形など）				
第13回	脊椎（頸椎・胸椎・腰椎）：機能解剖学 脊椎（頸椎・胸椎・腰椎）：機能解剖学				
第14回	脊椎：腰部安定化とそのメカニズム				
第15回	姿勢・歩行・動作分析				
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
小島悟,小林麻衣 責任編集：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト運動学実習。中山書店, 2016 藤縄理 著：運動・からだ図解 筋と骨格の触診術の基本。マイナビ出版, 2013					
参考書					
中村隆一,齋藤宏,長崎浩 著：基礎運動学。第6版, 医歯薬出版, 2003 林典雄 著：運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢。改訂第2版, メジカルビュー社, 2022 林典雄 著：運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹。改訂第2版, メジカルビュー社, 2022					
実務経験に関する内容					
3次救急を担う大学病院にて初療および手術を経て、整形外科または脳血管疾患の後方受け入れ病院でのリハビリテーションを担当。および介護保険施行前より訪問リハビリテーションを展開してきた。学術活動としては、「理学療法福岡」への投稿、学会発表。医療福祉経営学修士を修了。					

授業科目名	基礎運動学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン ヤマモト タカ ヒコ 山本 健・山本 圭彦
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
身体の構造を運動学的な観点から学ぶ。筋肉の収縮様態や関節構造から動きを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節の種類や形状、運動、筋肉が理解できる ・ 運動学的な観点から姿勢や運動の理解ができる 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節の種類や形状、運動を筋肉を踏まえて説明ができる。 ・ 姿勢のアライメント、バランスについて説明ができる。 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	基本姿勢の運動理解と身体運動の面と軸			第16回	運動とエネルギー代謝
第2回	てことカ学			第17回	運動とエネルギー代謝
第3回	神経伝導と種類 (神経構造、活動電位)			第18回	上肢帯と上肢の運動について (肩)
第4回	運動器の構造と機能 (関節の構造、関節包軟骨)			第19回	上肢帯と上肢の運動について (肩)
第5回	運動器の構造と機能 (関節の分類)			第20回	上肢帯と上肢の運動について (肘・前腕)
第6回	運動器の構造と機能 (筋収縮の様態)			第21回	上肢帯と上肢の運動について (手・手指)
第7回	運動器の構造と機能 (ミオシン・アクチン)			第22回	下肢帯と下肢の運動 (骨盤、股関節)
第8回	運動器の構造と機能 (関節包内運動)			第23回	下肢帯と下肢の運動 (膝関節)
第9回	基本姿勢、てこ、神経、関節構造まとめ			第24回	下肢帯と下肢の運動 (足関節)
第10回	運動器の構造と機能 (運動の中枢神経機構)			第25回	脊柱
第11回	運動器の構造と機能 (運動の中枢神経機構)			第26回	立位の安定性
第12回	運動制御 (FB,FF) 運動と呼吸・循環			第27回	動作分析・姿勢
第13回	運動制御 (FB,FF) 運動と呼吸・循環			第28回	歩行 (歩行周期)
第14回	運動制御 (FB,FF) 運動と呼吸・循環			第29回	歩行 (歩行中の関節運動)
第15回	運動の中枢、運動学習、呼吸・循環まとめ			第30回	運動学習
成績評価基準					
定期試験100% (前期成績 + 後期成績で総合的に処理します)					
教科書					
中村隆一, 齋藤宏, 長崎浩 著: 基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版, 2003					
参考書					
実務経験に関する記述					
山本健: 介護老人保健施設、個人病院デイケアで専任作業療法士として従事し、個別作業療法を実践した教員が基本的な身体構造、人体のしくみ、国家試験問題に関連する事柄について指導する。					
山本圭彦: 病院、クリニックで整形外科を中心に診療を行う。大学院では運動学に関する研究を行い博士号を取得する。					

授業科目名	人間発達学			(フリガナ) 担当教員名	ヒキノ 引野 リエ 里絵
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
人間の発達・成長に関する知識を総合的に学ぶ					
GIO (一般目標)					
ライフステージによる発達を学び、人間はどのような成長をしていくのか、その一端を考察すること。発達における「遊び」の重要性について学ぶこと。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・原始反射の発達の意味を説明することが出来る ・乳幼児期の発達のポイントとその関連性を説明することが出来る。 					
授業回数	授業内容				
第1回	胎児期の発達				
第2回	原始反射				
第3回	原始反射				
第4回	0-12ヶ月の発達 1				
第5回	0-12ヶ月の発達 2				
第6回	幼児期前期 (1-3歳) の発達 1				
第7回	幼児期前期 (1-3歳) の発達 2				
第8回	発達理論				
第9回	幼児期後期 (3-6歳) の発達 1				
第10回	幼児期後期 (3-6歳) の発達 2				
第11回	学齢期の発達				
第12回	青年期の発達				
第13回	成人期の発達				
第14回	老年期の発達				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
授業態度 (実技・発表などの積極的参加) : 60%					
筆記試験 (授業中の小テスト) : 40%					
教科書					
大城昌平, 儀間裕貴 編集: リハビリテーションのための人間発達学. 第3版, メディカルプレス, 2021 ※教科書・配布資料 (以前の授業で配布を含) は必ず持参すること					
参考書					
福田恵美子 編: コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学. 改訂6版, 中外医学社, 2022					
実務経験に関する内容					
定型発達および障害のある子どもたちの発達成長に関わっている作業療法士が、ライフステージ毎の発達の特徴を、臨床経験も織り交ぜながら講義する。					

授業科目名	リハビリテーション概論			(フリガナ) 担当教員名	イシ カワ シン ジ イシハラ ナオキ クリバヤシ カズ キ 石川 慎二・石原 直樹・栗林 一樹
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
リハビリテーションの理念(自立支援・就労支援等含む)、社会保障論、地域包括ケアシステムの理解と、それに関するセラピストの役割や他職種連携について理解する。					
GIO (一般目標)					
リハビリテーションの言葉の意味を理解するとともに、臨床の場での実践的なリハビリテーションを理解すること。					
SBO (行動目標)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションとは何かを理解する 2. 日本における社会保障制度について理解する 3. 地域包括ケアシステムの理解と他職種連携(チームアプローチ)について理解する 4. 地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う 					
授業回数	授業内容				
第1回	リハビリテーションの理念と定義の理解 (石川)				
第2回	理学療法とは(石原)				
第3回	言語聴覚療法とは(栗林)				
第4回	作業療法とは				
第5回	健康と障害の概念と分類の理解(ICIDH と ICF)				
第6回	障害の心理的・社会的視点の理解				
第7回	リハビリテーションの過程の理解				
第8回	リハビリテーションの諸段階の理解				
第9回	多職種連携(チームアプローチ)の理解				
第10回	リハビリテーションとの関連の深い関連職種の理解				
第11回	ADL,QOLの概念と評価法の理解				
第12回	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケアの理解				
第13回	リハビリテーションを支える医療・社会保障制度の理解				
第14回	医療・社会保障制度、関連法規の理解				
第15回	医の倫理、各専門職における倫理規定				
} (石川)					
成績評価基準					
筆記100%					
教科書					
田島文博 編著：医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論。改訂第4版、永井書店、2021					
参考書					
実務経験に関する内容					
<p>石川：医療機関で実践経験のある作業療法士が、リハビリテーションの基本的内容を講義する。</p> <p>石原：維持期に臨床経験のある理学療法士が、理学療法士の役割等について教示する。</p> <p>栗林：急性期や回復期リハ、生活期リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が講義する。</p>					

授業科目名	理学療法概論			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ チ トシ 上 年
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法士の業務及び関連法規について学び、理学療法の歴史および他国の理学療法の概要を理解する。					
GIO（一般目標）					
理学療法士の業務内容等の基礎的事項を理解する。また、地域包括ケアシステムなど、これから理学療法士に求められる使命を認識する。					
SBO（行動目標）					
理学療法士としての志を抱き、それに向かって具体的行動（理学療法を駆使して取り組む治療や持つべき資質）を考える。					
授業回数	授業内容				
第1回	イントロダクション（理学療法士Ⅰ）仕事・対象・現状				
第2回	リハビリテーションと関連職種（理学療法士Ⅱ）				
第3回	理学療法の方法Ⅰ（筋力強化・麻痺の回復・関節可動域運動・物理療法）				
第4回	理学療法の方法Ⅱ（基本動作練習・義肢/装具・日常生活動作練習）				
第5回	理学療法の対象の理解Ⅰ				
第6回	理学療法の対象の理解Ⅱ				
第7回	理学療法の実際				
第8回	理学療法士の倫理と適性Ⅰ				
第9回	理学療法士の倫理と適性Ⅱ				
第10回	理学療法士に必要な研究法				
第11回	理学療法士に関わる法令・制度				
第12回	理学療法士の歴史と展望【世界理学療法連盟・各国の理学療法】				
第13回	理学療法の安全管理				
第14回	理学療法士の卒前・卒後教育（日本理学療法士協会）				
第15回	理学療法の実践（適宜視聴覚教材を使用）				
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
網本和 監修：PTスタートガイド 基礎理学療法概論. 改訂第2版, MEDICAL VIEW, 2023					
参考書					
庄本康治 編：PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる. 羊土社, 2017					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持つ理学療法士が実際の経験をもとに講義・演習を行う。					

授業科目名	基礎理学療法評価学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
理学療法評価は、理学療法を提供する上で根幹となります。評価方法を覚えるだけでなく、その目的についても理解し、説明できるようになりましょう。					
GIO (一般目標)					
理学療法評価の基本的な方法を習得する。					
SBO (行動目標)					
各評価項目の目的・方法を説明し、実施することができる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	総論			第16回	関節可動域測定 (復習)
第2回	一般的評価項目			第17回	関節可動域測定 (肩甲帯)
第3回	バイタルサイン			第18回	関節可動域測定 (肩関節)
第4回	形態測定 (総論)			第19回	関節可動域測定 (肩関節)
第5回	形態測定 (周径)			第20回	関節可動域測定 (肘関節・前腕)
第6回	形態測定 (肢長)			第21回	関節可動域測定 (手関節・手指)
第7回	形態測定 (まとめ)			第22回	関節可動域測定 (手関節・手指)
第8回	関節可動域測定 (総論)			第23回	関節可動域測定 (まとめ)
第9回	関節可動域測定 (膝関節)			第24回	関節可動域測定 (まとめ)
第10回	関節可動域測定 (股関節)			第25回	疼痛検査
第11回	関節可動域測定 (股関節)			第26回	知覚検査
第12回	関節可動域測定 (足関節・足部)			第27回	知覚検査
第13回	関節可動域測定 (頸部)			第28回	反射検査
第14回	関節可動域測定 (胸腰部)			第29回	反射検査
第15回	関節可動域測定 (まとめ)			第30回	統合と解釈
成績評価基準					
前期、後期にそれぞれ筆記試験・実技試験を実施する。それぞれ60点未満の場合は、再試験を実施する。成績評価は前期・後期の結果を総合的に判断する。					
教科書					
松澤正,江口勝彦 著:理学療法評価学. 第6版補訂版, 金原出版, 2022					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	臨床見学実習			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ タツキ 長住 達樹
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	1	時間数	45
授業概要					
臨床でなければ学ぶことのできない対象者への対応、および他職員との人間関係を学習する場です。将来、目指す職業を見学を通して経験する。					
GIO (一般目標)					
実習生が臨床実習指導者のもとに、理学療法における実際の臨場感のある現場において、主に見学と通じて保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高めることである。					
SBO (行動目標)					
職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる、誠実で協調性のある、良い人間関係を作ることが出来る。					
授業回数	授業内容				
	臨床実習施設での見学実習 40時間 見学実習事前・事後に関するセミナー及び評価 5時間				
成績評価基準					
OSCEと臨床見学実習評価表で総合的に判断					
教科書					
教科書指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉など、臨床現場における理学療法士の指導の元、対象者への評価・治療などを見学を通して実習を行う。					

2年次

開講科目

授業科目名	ボランティア論			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ チトシ 洲上 千年				
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修				
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30				
授業概要									
近年盛んになりつつあるボランティア活動の歴史、意義を理解するとともに、持続可能な地域共生社会の実現に果たす役割、可能性について学習する。									
GIO (一般目標)									
主体的な判断と行動力を培い、生命倫理、人の尊厳を幅広く理解する。									
SBO (行動目標)									
ボランティア活動の社会的意義を理解し、主体的に参画する意欲を持つ。									
授業回数	授業内容								
第1回	ボランティア活動の理念と歴史								
第2回	ボランティア活動の概論 (ボランティア活動とは)								
第3回	ボランティア活動の範囲								
第4回	ボランティア活動の推進および学習								
第5回	ボランティア活動の実際① (過去の災害をもとに事例研究・適宜視聴覚教材を使用)								
第6回	ボランティア活動の実際② (高齢者疑似体験) 要支援者を演習								
第7回	ボランティア活動の実際③ (児童および国際貢献分野のボランティア活動を概観)								
第8回	地元まちづくり企画にボランティア参加し、 ボランティア活動を実践する まとめとふりかえり：ボランティアの可能性と展望								
第9回						まちづくりとボランティア①			
第10回						まちづくりとボランティア②			
第11回						まちづくりとボランティア③			
第12回						まちづくりとボランティア④			
第13回						まちづくりとボランティア⑤			
第14回						まちづくりとボランティア⑥			
第15回						まちづくりとボランティア⑦			
第15回	まちづくりとボランティア⑧								
成績評価基準									
期末試験 (筆記試験、レポート課題)									
教科書									
岡本榮一, 菅井直也, 妻鹿ふみ子 編集：学生のためのボランティア論. 社会福祉法人大阪ボランティア協会									
参考書									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 岡本榮一 監修, 森本友美, 河内昌彦, 立石宏昭 編著：ボランティアのすすめ. ミネルヴァ出版 ・ 久米 隼：これだけは理解しておきたいボランティアの基礎, 日本橋出版 									
実務経験に関する内容									
2年にわたり、居住地において自衛消防団として救護や消防活動を実践。また、当校の近隣において、海岸清掃や交通安全巡視活動を実施中。									

授業科目名	体表解剖学			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ タツキ 長住 達樹
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
触診を中心に実技を主とした授業。1年時の解剖学の復習も行う。					
GIO (一般目標)					
実技を通じて1年時の解剖学の知識を立体的にイメージできるようにする。					
SBO (行動目標)					
実技中に不明な点があれば積極的に確認すること。主体的に授業に参加すること。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	骨 : 上肢帯			第16回	骨 : 骨盤
第2回	骨 : 上腕骨			第17回	骨 : 大腿骨
第3回	筋 : 上肢帯の筋			第18回	関節 : 大腿と膝の関節
第4回	筋 : 上肢帯の筋			第19回	筋 : 骨盤帯の筋
第5回	骨 : 前腕骨			第20回	筋 : 骨盤帯の筋
第6回	関節 : 前腕の関節			第21回	骨 : 下腿骨
第7回	筋 : 上腕の筋			第22回	骨・関節 : 足部の骨と関節
第8回	骨・関節 : 手部の骨と関節			第23回	骨・関節 : 足部の骨と関節
第9回	骨・関節 : 手部の骨と関節			第24回	筋 : 大腿部の筋
第10回	筋 : 前腕の筋			第25回	筋 : 大腿部の筋
第11回	筋 : 前腕の筋			第26回	筋 : 下腿部の筋
第12回	靭帯 : 肩甲帯・肩関節			第27回	靭帯 : 骨盤・大腿・下腿部の靭帯
第13回	靭帯 : 肘関節に関わる靭帯			第28回	靭帯 : 足部の靭帯
第14回	神経 : 上肢の神経			第29回	神経 : 下肢の神経
第15回	血管 : 上肢の血管			第30回	血管 : 下肢の血管
成績評価基準					
実技50% 筆記50%					
教科書					
林典雄 著 : 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢. 改訂第2版, メジカルビュー社, 2022 (前期)					
林典雄 著 : 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹. 改訂第2版, メジカルビュー社, 2022 (後期)					
参考書					
実務経験に関する内容					
多くの病院やクリニックで勤務経験がある。入院・外来で担当した疾患を中心に解剖学・運動学を中心に提供できる。					

授業科目名	運動生理学			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ チ トシ 涸上 千年
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法を実施するうえで極めて重要な運動に対する生理反応と運動を継続するメカニズムについて学習するもの					
GIO (一般目標)					
運動による生理反応および運動を継続するメカニズムについて理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動による呼吸・循環・代謝の変化について説明できる。 ・ 運動を継続するうえで必要となる運動耐容能について説明できる。 					
授業回数	授業内容				
第1回	筋収縮とエネルギー供給				
第2回	ガス(空気)交換の運動生理学				
第3回	重力・運動に対する循環反応				
第4回	体温と体熱バランス(体温調節と外部環境)				
第5回	内分泌の運動生理学(ホルモン)				
第6回	トレーニングの効果(体力・筋力・持久力)				
第7回	各種フィールドテスト				
第8回	筋機能・関節障害と運動				
第9回	呼吸機能障害と運動(呼吸不全と運動制限)				
第10回	心機能障害と運動				
第11回	抹消動脈障害と運動(抹消動脈疾患、深部動脈血栓)				
第12回	代謝疾患と運動(糖尿病、肥満・メタボリックシンドローム)				
第13回	骨粗鬆症と運動				
第14回	腎機能障害と運動(心腎連関)				
第15回	加齢と運動(老年症候群)				
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
解良武士 編集：リハビリテーション運動生理学. メジカルビュー社, 2016					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持ち、心臓リハビリテーション指導士認定を取得している理学療法士が講義・演習を行う。					

授業科目名	関節運動学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカヒコ 山本 圭彦
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
講義形式で開催する。 四肢の関節や脊椎の関節に関して詳しい運動学を学びます。また、筋機能に関しても1年時の内容を更に詳しく学習します。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法に応用できるようになる ・動作分析に応用できるようになる 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な関節や筋の構造がイメージできるようになること。 ・関節運動と筋機能を合わせて考えることが習得できる 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	骨運動、関節包内運動			第16回	股関節:関節構造
第2回	肩関節複合体:骨、関節構造、胸鎖関節			第17回	股関節:関節包内運動、筋機能
第3回	肩関節複合体:胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節			第18回	股関節:筋機能
第4回	肩関節複合体:肩甲上腕関節			第19回	膝関節:関節構造、骨運動
第5回	肩関節複合体:肩甲上腕リズム、筋の作			第20回	膝関節:半月板、靭帯
第6回	肩関節複合体:筋機能			第21回	膝関節:関節力学、筋機能
第7回	肩関節複合体:筋の作用、インピンジメ ント症候群			第22回	膝関節:筋機能、関節負荷のメカニズム
第8回	肩関節障害			第23回	膝関節:筋機能、回旋筋
第9回	肘関節と前腕:関節構造、TFCC			第24回	足関節:関節構造、靭帯
第10回	肘関節と前腕:関節包内運動、筋			第25回	足関節:関節軸、関節包内運動
第11回	肘関節と前腕:筋			第26回	足関節:アーチ構造、筋機能
第12回	手根・手関節:関節構造			第27回	足関節:筋機能
第13回	手根・手関節:筋			第28回	脊柱:関節構造、靭帯
第14回	手指:関節構造、筋			第29回	脊柱:椎間板、筋機能
第15回	手指:運動学、筋			第30回	脊柱:筋機能
成績評価基準					
総合評価として期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
Donald A. Neumann 原著:筋骨格系のキネシオロジー、原著第3版、医歯薬出版、2018					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関(病院・クリニック)で勤務してきた。また一部、介護保険領域(通所ケア・訪問リハビリテーション)も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	臨床心理学			(フリガナ) 担当教員名	イトハラ 糸原 ヒロツグ 弘承
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
臨床心理学の概要、異常心理、評価方法、支援方法を概観します。					
GIO（一般目標）					
人間の心理・行動面の障害の治療・援助や予防、さらに健全な向上の方法を考えること。					
SBO（行動目標）					
臨床心理学に関する基本的な事項が理解できること。					
授業回数	授業内容				
第1回	パーソナリティ理論：類型論、特性論				
第2回	発達各期における心理臨床的問題：発達障害、不登校・ひきこもり・緘黙				
第3回	発達各期における心理臨床的問題：摂食障害、自我同一性の障害				
第4回	異常心理：精神分析、気分（感情）障害（抑うつ障害、双極性障害など）				
第5回	異常心理：統合失調症、心的外傷およびストレス因関連障害				
第6回	異常心理：パーソナリティ障害、不安症・強迫症				
第7回	異常心理：心身症、意識の障害、診断基準・国際的疾患分類（DSM、ICD）				
第8回	臨床心理学的アセスメント：知能検査				
第9回	臨床心理学的アセスメント：発達検査、パーソナリティ検査				
第10回	臨床心理学的アセスメント：面談、行動観察				
第11回	心理療法：クライアント中心療法、精神分析療法				
第12回	心理療法：遊戯療法				
第13回	心理療法：行動療法、応用行動分析（ABA）				
第14回	心理療法：認知療法（認知行動療法）				
第15回	心理療法：集団心理療法、家族療法				
成績評価基準					
期末試験100%					
教科書					
教科書は指定しません。講義は配布するレジユメで行います。					
参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・松井豊、杉江征、青木佐奈枝：スタンダード臨床心理学。サイエンス社、2015 ・丹野義彦、石垣琢磨、毛利伊吹、佐々木淳、杉山 明子：臨床心理学。有斐閣、2015 					
実務経験に関する内容					
言語聴覚士、公認心理師として様々な障がいのある方と接してきた経験を踏まえ、心理臨床に関する知見を概観します。					

授業科目名	病理学			(フリガナ) 担当教員名	オオハラ ヒロキ 大原 浩貴
開講学年	2年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
解剖・生理と併せ、基本的な病気の原因やなりたちを理解する。					
SBO (行動目標)					
細胞・組織の障害、循環障害、炎症、感染症、遺伝子異常など臓器の違いを問わない病因について理解し、説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	病理学で学ぶこと、細胞・組織の障害と修復				
第2回	循環障害(1)				
第3回	循環障害(2)				
第4回	炎症と免疫				
第5回	感染症				
第6回	代謝障害				
第7回	先天異常と遺伝子異常				
第8回	腫瘍				
成績評価基準					
試験 100%					
教科書					
大橋健一ら 著：系統看護学講座-専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学. 第6版, 医学書院, 2021					
参考書					
坂井建雄,岡田隆夫 著：系統看護学講座-専門基礎分野 1 人体の構造と機能[1] 解剖生理学. 第10版, 医学書院, 2018					
実務経験に関する内容					
病理学講座病態病理学講師により、病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちについて教育する。					

授業科目名	内科学			(フリガナ) 担当教員名	長坂 行博・渡邊 達三 井上 貴雄・高瀬 裕史・青木 耕
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
予防医学的観点から、リハビリテーション医療、さらに従事する方々の健康生活に寄与し得る医学的知識を共に学ぶ。(長坂)					
GIO (一般目標)					
疾病および障害の理解(井上)					
SBO (行動目標)					
基本的な内科疾患およびその治療方法について説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	生命誕生の奇跡 ~生命を守るシステム 自律神経				}
第2回	生命誕生の奇跡 ~生命を守るシステム 免疫系				
第3回	栄養学の基礎 ~3大栄養素等				
第4回	栄養学の基礎 ~ビタミン、ミネラル、ファイトケミカル等				
第5回	脳、神経系				
第6回	認知症について				
第7回	心臓、腎臓				
第8回	ストレスの本質と対応				
第9回	ガン、悪性腫瘍について				
第10回	現代病としての糖尿病について				
第11回	食習慣と各種疾患について				
第12回	食事と運動と健やかな老後				
第13回	腎癌/膀胱癌、前立腺肥大症/前立腺癌、子宮筋腫/子宮内膜症、子宮癌、卵巣腫瘍、骨折				担当：渡邊先生
第14回	顔面神経麻痺、白内障/緑内障、眼底出血、網膜剥離、中耳炎、花粉症				担当：渡邊先生
第15回	副鼻腔炎、虫歯/歯肉炎/歯槽膿漏、口内炎/舌癌、扁桃炎/アデノイド				担当：渡邊先生
第16回	肝・胆・膵 総論：解剖・生理・生化学				担当：渡邊先生
第17回	肝炎・肝硬変・肝癌・				担当：渡邊先生
第18回	胆石・胆道癌 : 急性・慢性膵炎・膵癌				担当：渡邊先生
第19回	病態と治療				担当：渡邊先生
第20回	アレルギー疾患と免疫				担当：井上先生
第21回	膠原病総論				担当：井上先生
第22回	膠原病各論				担当：井上先生
第23回	診断治療一般				担当：渡邊先生
第24回	消化器機能・解剖 消化器疾患概説				担当：渡邊先生
第25回	食道胃十二指腸疾患				担当：渡邊先生
第26回	腸疾患				担当：渡邊先生
第27回	循環器 P63~85				担当：渡邊先生
第28回	循環器 残り				担当：渡邊先生
第29回	糖尿病				担当：高瀬先生
第30回	B型肝炎				担当：青木先生
成績評価基準					
ペーパーテスト：長坂					
教科書					
上記内容のレジユメを配布し、テキストとさせていただきます。(長坂)					
伊東進,森博愛 編著：メディカルスタッフのための内科学. 第5版, 医学出版社, 2024					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格(内科、循環器、消化器、産科、外科等)をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	老年学			(フリガナ) 担当教員名	マツ イ リュウ キチ ナカガワ トモノリ 松井 龍吉・中川 知憲
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
GIO (一般目標)					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	加齢に伴う変化：生理機能				
第2回	加齢に伴う変化：運動・精神機能				
第3回	老年症候群				
第4回	循環器疾患・呼吸疾患				
第5回	神経・精神疾患				
第6回	骨・運動器疾患				
第7回	消化器・内分泌疾患				
第8回	腎・泌尿器疾患				
成績評価基準					
筆記試験 (100%)					
教科書					
鳥羽研二ら 著：系統看護学講座-専門分野 老年看護 病態・疾患論. 第5版, 医学書院, 2018					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産業）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	整形外科学			(フリガナ) 担当教員名	オオツカ テツヤ ヨネイ トオル 大塚 哲也・米井 徹 カキマル ヒロユキ クワタ スグル フルタ ショウタ 柿丸 裕之・桑田 卓・古田 翔太
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
緊急手術・学会等の都合により講義担当者が急に変更となる場合があります。 講義ノートは各講義担当医師ごとに作成してください。					
GIO (一般目標)					
整形外科の基本的な知識を学習する。					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	肩関節とその周辺の外傷・障害				担当：
第2回	骨系統疾患・骨端症及び壊死				担当：
第3回	整形外科疾患の検査と評価				担当：米井先生
第4回	リウマチ性疾患・骨・軟部腫瘍				担当：
第5回	末梢神経損傷				担当：
第6回	四肢循環障害				担当：
第7回	代謝・内分泌疾患・感染症				担当：米井先生
第8回	整形外科総論				担当：柿丸先生
第9回	整形外科的診断学 ①				担当：柿丸先生
第10回	整形外科的診断学 ②				担当：柿丸先生
第11回	整形外科的治療法 ①				担当：柿丸先生
第12回	整形外科的治療法 ②				担当：柿丸先生
第13回	整形外科とリハビリテーション ①				担当：柿丸先生
第14回	整形外科とリハビリテーション ②				担当：柿丸先生
第15回	まとめ				担当：柿丸先生
第16回	変形性股関節症				担当：
第17回	先天性股関節脱臼・ペルテス病				担当：
第18回	大腿骨頸部骨折				担当：米井先生
第19回	大腿部疾患				担当：米井先生
第20回	関節について				担当：大塚先生
第21回	肘・手関節				担当：
第22回	熱傷				担当：古田先生
第23回	脊椎疾患・頸椎				担当：柿丸先生
第24回	脊椎疾患・腰椎				担当：柿丸先生
第25回	骨粗鬆症				担当：柿丸先生
第26回	膝関節疾患（全身性疾患を含めて）				担当：桑田先生
第27回	下腿・足関節・足趾				担当：桑田先生
第28回	スポーツ外傷と障害 ①				担当：桑田先生
第29回	スポーツ外傷と障害 ②				担当：桑田先生
第30回	まとめ				担当：柿丸先生
成績評価基準					
定期試験					
その他					
教科書					
加倉井周一, 渡邊英夫 編：PT・OTのための整形外科学 運動器疾患とリハビリテーション. 第2版, 医歯薬出版, 1997					
参考書					
高橋邦泰, 芳賀信彦 編：整形外科学テキスト. 改訂第4版, 南江堂, 2017					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（日本整形外科学会専門医、認定リウマチ医、認定スポーツ医、認定脊椎脊髄病医、運動期リハビリテーション認定医、骨粗鬆症学会認定医）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	神経内科学			(フリガナ) 担当教員名	マツイ リュウ キチ ナカガワ トモノリ 松井 龍吉・中川 知憲
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
GIO (一般目標)					
SBO (行動目標)					
①神経疾患観察のための解剖学的・生理学的基礎知識を修得する。					
②主な神経疾患の診察方法や検査方法を学ぶ。					
授業回数	授業内容				
第1回	感染性疾患				
第2回	C V D (脳血管障害)				
第3回	C V D (脳血管障害)				
第4回	C V D (脳血管障害)				
第5回	中枢神経系の解剖と機能				
第6回	神経学的診断と評価				
第7回	神経学的検査法				
第8回	意識障害、脳死、植物状態 頭痛、めまい、失神				
第9回	末梢神経障害				
第10回	認知症				
第11回	変性疾患・脱髄疾患、錐体外路の変性疾患				
第12回	筋疾患				
第13回	脳神経外科領域の疾患				
第14回	脳腫瘍				
第15回	外傷性脳損傷				
成績評価基準					
テスト					
教科書					
川平和美 編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学. 第5版, 医学書院, 2019					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産業）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	中枢神経障害学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義および演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
中枢神経疾患の中でも、脳血管障害についての理解を深めるもの。					
GIO (一般目標)					
脳血管障害の概要と回復過程について理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・脳の解剖や機能の理解を深め、説明できる ・脳血管障害の疫学、予後、病因、症候について説明できる 					
授業回数	授業内容				
第1回	脳の解剖と機能 (全体像、大脳)				
第2回	脳の解剖と機能 (大脳基底核、視床)				
第3回	脳の解剖と機能 (脳幹、小脳)				
第4回	脳の血管 (解剖と灌流域)				
第5回	脳解剖と正常画像				
第6回	脳血管障害の疫学、予後、病因				
第7回	脳血管障害の症候 (被殻出血、視床出血)				
第8回	脳血管障害の症候 (皮質下出血、小脳出血、脳幹出血)				
第9回	塞栓症・血栓症と脳梗塞、一過性脳虚血発作				
第10回	脳血管障害の内科的・外科的治療				
第11回	くも膜下出血の治療と理学療法				
第12回	発症後のリスクとリスク管理				
第13回	廃用症候群、合併症の種類と予防				
第14回	脳血管障害の画像所見・高次脳機能障害				
第15回	再発予防・機能維持				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点に満たない場合は再試験を実施する。					
教科書					
久保俊一, 安保雅博 総編集: 脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト. 医学書院, 2021					
参考書					
尾上尚志ら 監修: 病気がみえる vol.7 脳・神経. 第2版, MEDIC MEDIA, 2017					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	小児科学			(フリガナ) 担当教員名	ナカ シマ マサ ヒロ アンドウ ユキ ノリ 中島 匡博・安藤 幸典
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
小児は心身共に成長・発達過程にあり、社会の影響を大きく受けます。子どもを取り巻く環境にも関心を持つことを期待しています。					
GIO (一般目標)					
小児科学の成長・発達など、基礎的な事項を理解する。					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	小児科学概論			担当：中島先生	
第2回	小児科学的症候・診断・治療			担当：中島先生	
第3回	免疫・アレルギー疾患			担当：中島先生	
第4回	子どもとメディア			担当：中島先生	
第5回	新生児・未熟児疾患・先天異常			担当：安藤先生	
第6回	神経疾患・筋疾患			担当：安藤先生	
第7回	小児の発育・発達			担当：安藤先生	
第8回	循環器・呼吸器・感染症			担当：安藤先生	
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
前垣 義弘,小倉加恵子 編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学. 第6版, 医学書院, 2023					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。小児科専門医が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	精神医学			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ 石川 慎二
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
精神医学の基本的概要について、講義を中心に進行していきます。					
GIO（一般目標）					
精神医学の基本的概要について修得する。					
SBO（行動目標）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患論を通じ、疾患の説明ができる。 2. 精神障害の治療・リハビリテーションについて説明できる。 3. 精神医学に関連する課題や、医療・保健・福祉に関する状況と制度面について説明できる。 					
授業回数	授業内容				
第1回	精神医学の歴史及び精神障害の成因と分類について理解する				
第2回	精神機能の障害と精神症状について理解する				
第3回	精神障害の診断と評価について理解する				
第4回	認知症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第5回	薬物依存症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第6回	統合失調症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第7回	気分障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第8回	神経症性障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第9回	成人のパーソナリティ・行動の障害について理解する				
第10回	精神遅滞、心理的発達障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第11回	精神障害の治療とリハビリテーション、薬物療法、精神療法について理解する				
第12回	リエゾン精神医学及び心身医学について理解する				
第13回	ライフサイクルにおける精神医学について理解する				
第14回	社会文化とメンタルヘルスについて理解する				
第15回	精神医学を取り巻く各種社会保障制度等について理解する。				
成績評価基準					
筆記試験100%（前期・後期ともに中間試験と期末試験を実施します）					
教科書					
上野武治 編集：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学。第4版増補版，医学書院，2021					
参考書					
実務経験に関する内容					
精神科医療に携わった経験を持つ作業療法士が、我が国における精神科医療の実際や、精神疾患の特徴、治療・リハビリテーションについて講義を中心に説明する。					

授業科目名	リハビリテーション医学 (薬理・栄養含)			(フリガナ) 担当教員名	マニウラキ アキ コウ ヤマトケン イハラナオキ 馬庭 壯吉・青木 耕・山本 健・石原 直樹 ニシノケンロウ ナガ 西園 憲郎・永戸 ゆうこ
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概要について理解し、障害に対するチームアプローチについて学ぶ。(馬庭) ・PT・OT・STで学ぶ疾患の概要を理解し、他職種が行う治療について習得する。 ・臨床現場でリハ職にも薬剤の知識が必要であるため基礎的な項目を身につけてもらう(西園) ・リハビリテーションを行う上で必要な栄養学の基礎知識や栄養療法について学ぶ。(永戸) 					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生から3年生にかけて学ぶ疾患の基礎となる知識・技術の全体像を習得する。 ・患者の服用薬剤をひととおり確認して、薬によって症状が改善されているか確認してリハビリに臨む(西園) ・リハビリテーションにおける栄養の必要性を理解し、栄養に関する知識を修得する。(永戸) 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の病態・医師の行う治療法を知り、その疾患に適応するPT・OT・STの治療の基礎を把握する。 ・薬剤の知識を身につけることで他職種とのコミュニケーションをとり専門職としての信頼を獲得する(西園) ・栄養学の基礎や栄養療法について説明できる。(永戸) ・健康管理やリハビリテーションにおける栄養の重要性について説明できる。(永戸) 					
授業回数	授業内容				
第1回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション				馬庭
第2回	脊髄損傷・二分脊椎				
第3回	リハビリテーション医学総論				
第4回	脳血管障害の概念①				青木
第5回	脳血管障害の概念②				
第6回	脳血管障害のリハビリテーション①				
第7回	脳血管障害のリハビリテーション②				石原
第8回	内部障害 循環器疾患とリハビリテーション				
第9回	内部障害 呼吸器疾患とリハビリテーション				
第10回	内部障害(糖尿病、高脂血症等)の疾患概念				山本健
第11回	内部障害(糖尿病、高脂血症等)のリハビリテーション				
第12回	関節リウマチと膠原病の疾患概念				
第13回	関節リウマチのリハビリテーション				西園
第14回	神経筋疾患のリハビリテーション(ALS、SCDなど)				
第15回	神経筋疾患のリハビリテーション(PD、GBなど)				
第16回	なぜリハ職が薬剤について知らなければならないのか				永戸
第17回	第1章 整形外科疾患に使用される薬剤				
第18回	第2章 脳神経疾患に使用される薬剤				
第19回	" "				
第20回	第3章 呼吸・循環・消化器・代謝疾患に使用される薬剤				
第21回	第4章 生活習慣病に使用される薬剤				
第22回	第5章 高齢者に使用される薬剤についての注意点				
第23回	第6章 緩和・精神心理に使用される薬剤				
第24回	リハビリテーションに役立つ薬の知識の総まとめ				
第25回	リハビリテーションにおける栄養知識の重要性				
第26回	栄養素の役割と食事摂取基準				
第27回	ライフステージ別の栄養①				
第28回	ライフステージ別の栄養②				
第29回	疾患別の栄養療法①				
第30回	疾患別の栄養療法②				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
藤原俊之 監修, 高橋哲也 編集: リスクに備えて臨床に活かす 理学療法にすぐに役立つ薬の知識. 医学書院, 2021 (西園)					
配布資料 (永戸)					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。日本リハビリテーション医学会専門医による整形外科疾患に関する講義、薬剤師および管理栄養士によるリハビリテーションに関連する薬剤や栄養について実践的な教育を行う。					

授業科目名	画像診断学			(フリガナ) 担当教員名	ナカシマ 中島 クルミ 久瑠美
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
臨床では読影が必要になります。様々な画像を診て症状が予測できるように行っていきます。					
GIO (一般目標)					
脳梗塞/脳出血の画像を理解し説明できる。 骨折の画像を理解し説明できる。					
SBO (行動目標)					
CT・MRI・単純レントゲンの特徴を説明できる。 解剖と画像をリンクしてイメージできる。					
授業回数	授業内容				
第1回	脳血管の基本解剖/頭部の正常像				
第2回	一過性脳虚血発作・脳梗塞				
第3回	脳内出血/くも膜下出血・もやもや病				
第4回	頭部外傷総論/脊髄小脳変性症				
第5回	レビー小体型認知症/認知症/特発性正常圧水頭症				
第6回	呼吸器・循環器の正常と異常				
第7回	呼吸器・循環器の正常と異常				
第8回	脊椎の正常と異常①				
第9回	脊椎の正常と異常②				
第10回	肩関節の正常と異常				
第11回	肘関節の正常と異常				
第12回	手関節の正常と異常				
第13回	股関節の正常と異常				
第14回	膝関節の正常と異常				
第15回	足関節の正常と異常				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点未満は再試験を行う。					
教科書					
山下敏彦,下濱俊 監修: PT・OTのための画像のみかた。第2版, 金原出版, 2019 解剖学で使用した教科書					
参考書					
実務経験に関する内容					
病院、介護老人保健施設等で勤務し多様な疾患に対してきた。その経験をもとにレントゲン・MRI・CTの画像診断の方法等の講義を行う。					

授業科目名	救命医学			(フリガナ) 担当教員名	フルタ ショウタ 古田 翔太
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・実習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
高度化する医療ニーズに対応するためAEDの使用や人工呼吸等の基礎知識、技術を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
安全管理学、救急医療学を学ぶことでリスク管理を徹底できるようになる。 上級救命講習終了証を取得する。					
SBO (行動目標)					
①手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得できる。 ②臨床実習に必要な安全管理や組織連携に関する基本的知識を習得できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	救命医学安全管理学総論			第8回	救命医学総論
第2回	一次救命処置			第9回	安全管理学総論
第3回	救命技術 (外部)			第10回	感染症に対する安全管理
第4回	救命技術 (外部)			第11回	転倒予防、医療機器の安全管理
第5回	救命技術 (外部)			第12回	安全管理を高める連携と教育
第6回	救命技術 (外部)			第13回	急性期・周術期の循環・代謝動態
第7回	救命技術 (外部)			第14回	ICU・高度急性期リハビリテーション
				第15回	在宅での安全管理と救急時の対応
成績評価基準					
前期 レポート100%					
後期 定期試験100%					
教科書					
内山靖,藤井浩美,立石雅子 編:リハベーシック 安全管理学・救急医療学. 医歯薬出版, 2021					
参考書					
実務経験に関する内容					
救急救命士による救命講習(座学・実技)を行い、保健・医療・福祉の現場における実践的な教育を行う。 急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、その経験を生かし、救命医学について講義、演習を行う。					

授業科目名	理学療法評価演習			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅	アヤコ 綾子	ナカシマ 中島	クルミ 久瑠美
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修			
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60			
授業概要								
理学療法士が実施する理学療法評価について、機能低下と検査測定内容を関連付け、実際に検査測定が実施できるように演習を行う。								
GIO (一般目標)								
理学療法士が実施する機能低下を把握するための検査測定を身に着ける。								
SBO (行動目標)								
各理学療法評価の方法について、関連要因を把握し実施できるようになる。								
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容			
第1回	オリエンテーション・筋力測定 (総論)			第16回	整形外科疾患検査			
第2回	MMT (頭頸部)			第17回	整形外科疾患検査			
第3回	MMT (体幹・コアテスト)			第18回	整形外科疾患検査			
第4回	MMT (小テスト・実技確認)			第19回	整形外科疾患検査			
第5回	MMT (肩甲帯)			第20回	脳神経検査			
第6回	MMT (肩)			第21回	脳神経検査			
第7回	MMT (肘・前腕・手関節)			第22回	高次脳機能検査			
第8回	MMT (手指)			第23回	高次脳機能検査			
第9回	MMT (小テスト・実技確認)			第24回	協調性検査			
第10回	MMT (股関節)			第25回	協調性検査			
第11回	MMT (膝、足関節)			第26回	筋トーヌス検査			
第12回	MMT (顔面、その他)			第27回	筋トーヌス検査			
第13回	MMT (小テスト、実技確認)			第28回	姿勢反射検査			
第14回	片麻痺運動機能検査			第29回	姿勢反射検査			
第15回	片麻痺運動機能検査			第30回	症例			
成績評価基準								
筆記試験・実技試験を実施する。それぞれ60点未満の場合は、再試験を実施する。 前期・後期成績は筆記試験50%、実技試験50%とする。最終成績は前期と後期を総合的に判断する。								
教科書								
【前期】松澤正,江口勝彦 著:理学療法評価学. 第6版補訂版, 金原出版, 2022 Dale Avers,Marybeth Brown 著:新・徒手筋力検査法. 原著第10版, 協同医書出版社, 2020 【後期】松澤正,江口勝彦 著:理学療法評価学. 第6版補訂版, 金原出版, 2022 田崎義昭,斎藤佳雄 著:ベッドサイドの神経の診かた. 改訂18版, 南山堂, 2016								
参考書								
実務経験に関する内容								
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。								

授業科目名	基礎運動療法			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
運動療法は、理学療法を提供するうえで、主軸となります。基礎的な学習を行いつつ、実技やグループ学習等も行ないます。					
GIO (一般目標)					
運動療法の目的、対象、各種類の特性を理解する。					
SBO (行動目標)					
運動療法の各方法の定義、目的や方法を説明することができる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	関節可動域訓練の総論 (目的・意義)			第16回	筋力・筋持久力増強訓練
第2回	関節可動域の維持・改善			第17回	筋力・筋持久力増強訓練
第3回	関節可動域の維持・改善			第18回	筋力・筋持久力増強訓練
第4回	関節可動域の維持・改善			第19回	筋力・筋持久力増強訓練
第5回	関節可動域の維持・改善			第20回	筋力・筋持久力増強訓練(グループ発表)
第6回	関節可動域の維持・改善			第21回	協調性訓練(総論)
第7回	関節可動域訓練 (グループ演習：評価と治療)			第22回	協調性訓練
第8回	関節可動域訓練 (グループ発表)			第23回	協調性訓練
第9回	筋力・持久力増強訓練の総論 (目的・原則)			第24回	協調性訓練
第10回	筋力増強訓練			第25回	協調性訓練
第11回	筋力増強訓練			第26回	障害別の治療体操
第12回	筋力増強訓練			第27回	障害別の治療体操
第13回	筋力増強訓練 (グループ演習：評価と治療)			第28回	障害別の治療体操
第14回	姿勢保持改善に対する体操			第29回	障害別の治療体操
第15回	姿勢保持改善に対する体操			第30回	まとめ
成績評価基準					
定期試験 100%					
前期と後期の定期試験を総合し、成績処理を行う。					
教科書					
細田多穂 監修：シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト。改訂第3版，南江堂，2019					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科クリニックで勤務し多様な疾患に対してきた。その経験をもとに運動療法の基礎や考え方の講義を行う。					

授業科目名	徒手療法			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
講義は、主に実技が主体となりますが、理解・習得するためには、筋・骨の解剖学・運動学の知識が大変重要です。予習と復習を行なっていきましょう。					
GIO (一般目標)					
IDストレッチ、関節モビライゼーションの基礎的な技術を身につける。					
SBO (行動目標)					
各筋・各関節に対して治療手技を説明・選択できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	ストレッチの概念			第16回	股関節のストレッチ
第2回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第17回	股関節のストレッチ
第3回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第18回	股関節のストレッチ
第4回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第19回	膝関節のストレッチ
第5回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第20回	膝関節のストレッチ
第6回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第21回	膝関節のストレッチ
第7回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第22回	足関節のストレッチ
第8回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第23回	足関節のストレッチ
第9回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第24回	股関節のモビライゼーション
第10回	関節モビライゼーションの概念			第25回	股関節のモビライゼーション
第11回	肩関節のモビライゼーション			第26回	股関節のモビライゼーション
第12回	肘関節のモビライゼーション			第27回	膝関節のモビライゼーション
第13回	肘関節のモビライゼーション			第28回	膝関節モビライゼーション
第14回	手関節のモビライゼーション			第29回	足関節モビライゼーション
第15回	手関節のモビライゼーション			第30回	足関節モビライゼーション
成績評価基準					
実技試験を実施する。60点未満となった場合は、再試験を実施する。 前期・後期の定期試験の結果を総合し、成績処理とする。					
教科書					
・鈴木重行 編集：IDストレッチング。第2版，三輪書店，2006 ・藤縄理 著：徒手理学療法—Manual Physical Therapy。三輪書店，2009					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期および外来リハ、訪問リハ等において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かし、演習を行う。					

授業科目名	基礎物理療法			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ 長住	タツキ 達樹
開講学年	2年	開講学期	前期	必修/選択	必修	
授業形態	講義・演習・実習	単位数	2	時間数	30	
授業概要						
理学療法の3大治療の1つである物理療法について、物理的エネルギーがどのように治療として活用されているのか、学び実際に使用する。						
GIO (一般目標)						
物理療法のメカニズムや使用方法、適応・禁忌などの知識を習得する						
SBO (行動目標)						
物理療法の種類やメカニズム、使用方法、適応・禁忌について説明できる。						
授業回数	授業内容					
第1回	物理療法の定義、分類					
第2回	物理療法の適応の多い病態の理解：炎症、組織修復、痛み					
第3回	温熱療法：定義・分類・基礎・生理学的作用					
第4回	温熱療法：ホットパック、パラフィン					
第5回	温熱療法：超短波、極超短波、超音波					
第6回	寒冷療法：定義・分類・基礎・生理学的作用・実際					
第7回	水治療法：定義・分類・基礎・生理学的作用・実際					
第8回	電気刺激療法：定義・分類・基礎・生理学的作用					
第9回	電気刺激療法：治療的電気刺激療法、機能的電気刺激療法					
第10回	電気刺激療法：経皮的末梢神経電気刺激療法、中周波・干渉波電気刺激療法					
第11回	電気診断：定義・分類・基礎・生理学的作用					
第12回	光線療法：定義・分類・基礎・生理学的作用					
第13回	光線療法：赤外線、紫外線、レーザー					
第14回	牽引療法：定義・分類・基礎・生理学的作用、実際					
第15回	圧迫療法、振動療法その他の療法					
成績評価基準						
筆記試験100%						
教科書						
網本和,菅原憲一 編集：標準理学療法学 専門分野 物理療法学. 第5版, 医学書院, 2020						
参考書						
実務経験に関する内容						
多くの病院やクリニックで勤務経験がある。入院・外来で担当した物理療法の経験とともに基本的知識を提供できる。						

授業科目名	物理療法演習			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ 長住 タツキ 達樹
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	1	時間数	30
授業概要					
前期の基礎物理療法の授業内容を踏まえて実習を行う。					
GIO (一般目標)					
適応・禁忌の理解を前提に対象者に治療を実施できる					
SBO (行動目標)					
実習の際に患者に治療を実施することを想定して説明を行いつつ治療を実施する。					
授業回数	授業内容				
第1回	水治療法				
第2回	水治療法				
第3回	電気刺激療法				
第4回	電気刺激療法				
第5回	電気刺激療法				
第6回	電気刺激療法				
第7回	電気診断				
第8回	電気診断				
第9回	牽引療法				
第10回	牽引療法				
第11回	温熱療法				
第12回	温熱療法				
第13回	温熱療法				
第14回	温熱療法				
第15回	温熱療法				
成績評価基準					
課題、筆記試験、実技試験を総合的に評価する。					
教科書					
網本和,菅原憲一 編集:標準理学療法学 専門分野 物理療法学. 第5版, 医学書院, 2020					
参考書					
実務経験に関する内容					
多くの病院やクリニックで勤務経験がある。入院・外来で担当した物理療法の経験とともに演習を提供できる。					

授業科目名	臨床評価実習			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	実習	単位数	2	時間数	90
授業概要					
評価学で学んだ技術を患者様に対して実施する。また施設の中での役割を学ぶ。					
GIO（一般目標）					
対象者に対して適切に検査・測定が実施できる					
SBO（行動目標）					
対象者の状態に適した検査・測定が選択できる。対象者の状態を理解して安全性に配慮できる。得られた結果を正しく解釈できる					
授業回数	授業内容				
	実習施設での評価実習 90時間 * 臨床実習は45時間で1単位とします。				
成績評価基準					
OSCEおよび臨床評価表を基に総合的に判断します。					
教科書					
指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉など、臨床現場における理学療法士の指導の元、対象者への評価を見学・共同参加・実施して学ぶ実習を行う。					

3 年次

開講科目

授業科目名	社会保障学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義及び演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
リハビリテーションは関連する各制度のもとで行われる。制度の適切な適用を図るため、社会保障制度について学習するもの。					
GIO (一般目標)					
社会保障制度の概要と実際について理解する。自立支援・就労支援、社会保障制度や地域包括ケアシステムに関する専門職としての役割を法的な観点から理解した上で、他の関係機関との連携の必要性について理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度の種類を列挙し、概要を説明できる。 ・ 社会保障制度の歴史について述べることができる ・ 生活環境に関わる制度について説明できる ・ 保健、医療、福祉の動向と政策について説明できる 					
授業回数	授業内容				
第1回	私たちの暮らしと社会保障制度				
第2回	社会保障制度の概要 (種類・機能・役割)				
第3回	医療保健制度の概要と実際				
第4回	介護保健制度の問題と動向				
第5回	介護保険制度の概要				
第6回	地域包括ケアシステムの概要とリハビリテーション専門職の役割				
第7回	障害者総合支援法 (自立支援・就労支援含む)				
第8回	障害者総合支援法 (自立支援・就労支援含む)				
第9回	年金制度				
第10回	労災保険制度・社会手当				
第11回	児童福祉法・生活保護法				
第12回	バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する法制度				
第13回	公衆衛生				
第14回	社会福祉援助・多職種連携				
第15回	保健・医療・福祉の動向と今後の施策				
成績評価基準					
後期末に筆記試験を実施する。60点未満の場合は再試験を実施する。					
教科書					
福田素生 著者代表：健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉. 第25版, 医学書院, 2024					
参考書					
随時、資料を配布します					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	理学療法研究法			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカ ヒコ 山本 圭彦
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
研究に対する基本的な知識を学び、実際に研究活動を行う					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に対する基本的な知識を学ぶ ・実験や統計学的分析の方法を理解する ・研究発表ができるようになる 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に関して興味を持ち、探求心が養える ・実際の臨床の場に出た際に分析する能力が向上する 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	研究とは			第16回	筋力を用いた研究の概要
第2回	EBMと文献種類・利用			第17回	筋力を用いた研究の実際
第3回	統計解析の基本			第18回	筋電図を用いた研究の概要
第4回	データ集計			第19回	筋電図を用いた研究の実際
第5回	データ集計の方法			第20回	結果の解釈と図表の作成
第6回	統計学的検定法の選択方法			第21回	研究計画 (文献検索)
第7回	統計学的検定法の選択方法			第22回	研究計画 (目的)
第8回	統計学的検定法の選択方法			第23回	研究計画 (方法と分析方法)
第9回	統計学的検定法の選択方法			第24回	測定の実践
第10回	感度と特異度			第25回	測定の実践
第11回	相関と回帰			第26回	データ分析
第12回	統計演習問題			第27回	発表資料作成の概要
第13回	統計演習問題			第28回	発表資料作成の実践
第14回	論文の校正			第29回	発表資料作成の実践
第15回	研究テーマと計画			第30回	発表
成績評価基準					
総合評価として期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
内山靖, 島田裕之 編集: 標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法. 第3版, 医学書院, 2013					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関 (病院・クリニック) で勤務してきた。また一部、介護保険領域 (通所ケア・訪問リハビリテーション) も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	理学療法管理運営論			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ トシ 渕上 千年
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法士として、社会人として働くために必要な医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育およびマネジメントを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。					
SBO (行動目標)					
職業倫理について説明できる。 医療保険制度、介護保険制度を理解し説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	理学療法管理学とは(リハビリテーションにおける管理学)				
第2回	各組織の関連法規の基礎知識				
第3回	対象者の権利・尊厳				
第4回	理学療法で起り得る有害事象				
第5回	対象者・家族からのクレーム				
第6回	職員のメンタルヘルス・マネジメント				
第7回	病院における管理・運営(業務・情報)				
第8回	病院における管理・運営(収益)				
第9回	病院における管理・運営(臨床実習)				
第10回	介護保険関連施設における管理・運営				
第11回	介護保険関連施設における管理・運営(臨床実習)				
第12回	卒前教育における管理・運営(学科の立ち上げ)				
第13回	急性期・回復期の理学療法マネジメント				
第14回	研究室における管理・運営				
第15回	NPO法人における管理・運営および総括				
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
齋藤昭彦, 下田信明 編: PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学. 羊土社, 2020					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持ち、診療情報管理士認定を取得している理学療法士が講義を行う。					

授業科目名	疾患別理学療法演習			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカ ヒコ 山本 圭彦
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
理学療法として対応することの多い疾患の評価について学びます。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 各疾患に必要な評価項目が列挙できる 結果の解釈ができるようになる 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 病態や症状、動作から問題点を推察できるようになる 推察した問題に対して適切な検査、測定ができるようになる 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	実習の概要			第16回	脳血管障害
第2回	実習での学び方			第17回	脳血管障害
第3回	理学療法の思考プロセス			第18回	脳血管障害
第4回	理学療法の問題点の捉え方			第19回	脳血管障害
第5回	ゴール設定・リハビリテーション方針			第20回	肩関節周囲炎
第6回	診療記録の見方と書き方			第21回	肩関節周囲炎
第7回	大腿骨近位端骨折			第22回	肩関節周囲炎
第8回	大腿骨近位部骨折			第23回	多職種連携
第9回	大腿骨近位部骨折			第24回	多職種連携
第10回	変形性関節症			第25回	多職種連携
第11回	変形性関節症			第26回	脊柱疾患
第12回	変形性関節症			第27回	脊柱疾患
第13回	パーキンソン病			第28回	脊柱疾患
第14回	パーキンソン病			第29回	症例報告の書き方
第15回	パーキンソン病			第30回	症例報告の書き方
成績評価基準					
総合評価として期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
松澤正,江口勝彦 著:理学療法評価学. 第6版補訂版, 金原出版, 2022					
岡田 慎一郎ら 著:理学療法 臨床実習サポートブック. 医学書院, 2015					
参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・神野哲也 監:ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ. 羊土社, 2012 ・潮見泰藏 編:PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学. 羊土社, 2018 ・久保俊一,安保雅博 総編集:脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト. 医学書院, 2021 					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関(病院・クリニック)で勤務してきた。また一部、介護保険領域(通所ケア・訪問リハビリテーション)も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	クリニカルリーズニング論			(フリガナ) 担当教員名	ナカシマ 中島	クルミ 久瑠美
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修	
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60	
授業概要						
症例患者さんの疾患特徴や問題点の統合と解釈をディスカッションしながら行う。						
GIO (一般目標)						
疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と対象者の自立生活を支援していくために必要な知識や技術を修得し、課題解決能力を培う						
SBO (行動目標)						
症状と検査結果を関連付けて説明できる。						
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容	
第1回	イントロダクション			第16回	脳血管障害急性期 症例提示	
第2回	大腿骨転子部骨折 (課題提出あり)			第17回	脳血管障害急性期 統合と解釈	
第3回	大腿骨転子部骨折 症例紹介			第18回	脳血管障害急性期 統合と解釈	
第4回	大腿骨転子部骨折演習			第19回	脳血管障害回復期 症例提示	
第5回	大腿骨転子部骨折 (課題提出あり)			第20回	脳血管障害回復期 統合と解釈	
第6回	大腿骨転子部骨折 統合と解釈			第21回	脳血管障害回復期 統合と解釈	
第7回	変形性股関節症 (課題提出あり)			第22回	脳血管障害回復期 重度片麻痺	
第8回	変形性股関節症 症例紹介			第23回	脳血管障害回復期 重度片麻痺	
第9回	変形性股関節症 (課題提出あり)			第24回	脳血管障害回復期 重度片麻痺	
第10回	変形性股関節症 統合と解釈			第25回	進行期パーキンソン病 症例提示	
第11回	変形性股関節症演習			第26回	進行期パーキンソン病 統合と解釈	
第12回	変形性膝関節症 (課題提出あり)			第27回	進行期パーキンソン病 統合と解釈	
第13回	変形性膝関節症 症例紹介			第28回	ALS 症例提示	
第14回	変形性膝関節症 (課題提出あり)			第29回	ALS 統合と解釈	
第15回	変形性膝関節症 統合と解釈			第30回	ALS 統合と解釈	
成績評価基準						
課題提出60% (事前学習)、筆記試験40%の総合判定。総合判定で60%満たない場合は再試験を1回実施する。提出期限の遅れ・未提出は採点より除外する。						
教科書						
豊田輝 編：症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト。羊土社，2021						
参考書						
実務経験に関する内容						
病院、介護老人保健施設等で勤務し多様な疾患に対してきた。その経験をもとに症例の動画を利用し実践的な思考過程を講義・演習で行う。						

授業科目名	動作分析学			(フリガナ) 担当教員名	ナカシマ クルミ 中島 久瑠美
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
理学療法分野で対象となることが多い基本的な動作の理解を深める。異常な歩行動作を理解することで、正常な歩行動作との差異を理解する。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行や姿勢に関して詳細な知識を獲得する ・歩行時の関節運動と筋活動を深く理解する 					
SBO (行動目標)					
正常および異常な歩行観察と分析ができるようになる					
<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢観察や動作観察ができるようになる 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	歩行の概要①			第16回	背臥位
第2回	歩行の概要②			第17回	寝返り①
第3回	歩行周期総論①			第18回	寝返り②
第4回	歩行を可能にするメカニズム①			第19回	起き上がり①
第5回	歩行を可能にするメカニズム②			第20回	起き上がり②
第6回	目視による動作観察①			第21回	坐位
第7回	目視による動作観察②			第22回	立ち上がり①
第8回	目視による動作観察③			第23回	立ち上がり②
第9回	歩行観察①			第24回	立位
第10回	歩行観察②			第25回	片麻痺を有する動作①
第11回	歩行観察③			第26回	片麻痺を有する動作②
第12回	歩行観察④			第27回	片麻痺を有する動作③
第13回	姿勢動作観察①			第28回	パーキンソニズムを有する動作
第14回	姿勢動作観察②			第29回	運動失調症の動作
第15回	姿勢動作観察③			第30回	変形性膝関節症の動作
成績評価基準					
期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
石井慎一郎 編著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践。メジカルビュー社、2013					
参考書					
実務経験に関する内容					
病院、介護老人保健施設等で勤務し多様な疾患に対してきた。その経験をもとに症例の動画を利用し実践的な思考過程を講義・演習で行う。					

授業科目名	ADL論			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ 瀬上 チトシ 千年
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義または演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
ADLの基本的な知識を学び、疾患ごとのADL評価および日常生活の支援や自立にに必要な介護福祉機器そして自助具等の選択を理解する。					
GIO (一般目標)					
各ADL評価を理解のうえ、動作分析を演習する。					
SBO (行動目標)					
疾患別そして生活環境ごとの特徴を踏まえ、必要とされる日常生活動作および各メカニズムについて説明することができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	ADLの総論 (概念、目的、意義)				
第2回	ADL評価と実際① ADL評価の概要と評価法				
第3回	ADL評価と実際② 動作分析の視点				
第4回	ADL評価と実際③ BI				
第5回	ADL評価と実際④ 機能的自立度評価法 (FIM)				
第6回	FIM 総論・食事・整容				
第7回	FIM 清拭・更衣上下				
第8回	FIM トイレ・排泄コントロール				
第9回	FIM 移乗・移動・階段				
第10回	FIM 認知・理解・表出				
第11回	FIM 社会・問題・記憶				
第12回	補装具 (ADL支援機器やテクニカルエイドを試用)				
第13回	基本動作①② 総論				
第14回	基本動作③④ 起居動作 (演習)				
第15回	疾患別ADL指導				
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
・千野直一ら 編著：実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価—SIASとFIM [基礎編] . 金原出版, 2012					
・河元岩男ら 編：シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト. 改訂第3版, 南江堂, 2019					
参考書					
・伊藤利之, 江藤文夫 編：新版 日常生活活動 (ADL) 第2版 評価と支援の実際. 医歯薬出版, 2020					
実務経験に関する内容					
3次救急を担う大学病院での初療および手術を経て、整形外科または脳血管疾患の後方受け入れ病院でのリハビリテーションを担当。および介護保険施行前より訪問リハビリテーションを展開してきた。学術活動としては、「理学療法福岡」への投稿、学会発表。医療福祉経営学修士を修了。					

授業科目名	装具学			(フリガナ) 担当教員名	ナカムラ 中村 哲郎・大森 浩己 イシハラ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
実習を中心に装具に関する知識を身に付ける (中村 哲郎)					
実習を通じ義肢についての理解を深める (大森 浩己)					
装具の名称・構造の理解、適切な装具の選択について習得する。 (石原 直樹)					
GIO (一般目標)					
義肢装具の種類・名称・適合判定について整理して学習しましょう。 (中村 哲郎・大森 浩己)					
装具の名称・構造を理解し、各疾患への適切な装具の選択ができるようになる (石原 直樹)					
SBO (行動目標)					
・装具の名称や装具の適応を理解する。 (石原 直樹)					
授業回数	授業内容				
第1回	装具学総論				
第2回	上肢装具の種類と名称				
第3回	下肢装具の種類と名称				
第4回	体幹装具の種類と名称				
第5回	靴型装具の種類と名称				
第6回	各疾患に対する装具療法①				
第7回	各疾患に対する装具療法②				
第8回	装具概論				
第9回	装具実習				
第10回	装具実習				
第11回	装具実習				
第12回	実習 下腿義足				
第13回	実習 大腿義足				
第14回	実習 大腿義足				
第15回	実習 義手				
					中村 哲郎 大森 浩己
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
上杉雅之 監修,長倉裕二,岩瀬弘明 編:イラストでわかる装具療法. 医歯薬出版, 2021					
参考書					
川村次郎他 編:義肢装具学 第4版. 医学書院, 2009 (中村哲郎・大森浩己)					
上杉雅之 監修:イラストでわかる義肢療法. 医歯薬出版, 2021					
実務経験に関する内容					
臨床の最前線で働く義肢装具士による、実習を中心とした義肢・装具について理解を深める教育を行う。					
整形外科領域で臨床経験を持つ理学療法士が、装具療法の基本となる各装具の名称、構造を説明し、また代表的な疾患に対する装具の選択等について講義を行う。					

授業科目名	義肢学			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
義肢の名称・構造の理解し、切断者へのリハビリテーションについて理解する。					
GIO (一般目標)					
各義足の構造を理解して、歩行時に適切なアライメントの修正を指導できるようにする。					
SBO (行動目標)					
適切な各義足選択していくために、義足の部品や構造を習得し、異常歩行の問題を検討する。 また義足を装着するために必要な理学療法について学習する。					
授業回数	授業内容				
第1回	義肢学総論				
第2回	切断患者の評価				
第3回	下腿義足の構造および特徴				
第4回	下腿義足のアライメントチェック				
第5回	下腿義足の断端管理および理学療法①				
第6回	下腿義足の断端管理および理学療法②				
第7回	大腿義足の構造および特徴				
第8回	大腿義足のアライメントチェック				
第9回	大腿義足の断端管理および理学療法①				
第10回	大腿義足の断端管理および理学療法②				
第11回	股義足の構造および特徴				
第12回	膝義足の構造および特徴				
第13回	サイム義足・足義足の構造および特徴				
第14回	サイム義足・足義足の理学療法				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
上杉雅之 監修：イラストでわかる義肢療法。医歯薬出版，2021					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科領域で臨床経験を持つ理学療法士が、義肢療法の基本となる各部品の名称、構造を説明し、また各切断に対するの治療の流れや実施方法について講義を行う。					

授業科目名	中枢神経治療学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
脳血管障害を中心とした脳の疾患に対する急性期から維持期までの治療や理学療法、予防について理論を学習するもの。					
GIO (一般目標)					
中枢神経障害に対する理学療法の流れと考え方、方法などを習得する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 急性期、回復期、維持期理学療法の概要を説明できる ガイドラインやクリティカルパスについて説明できる 					
授業回数	授業内容				
第1回	脳血管障害の復習・急性期理学療法の概要とリスク管理				
第2回	座位練習、起き上がり練習の進め方				
第3回	座位姿勢・立ち上がり動作・立位姿勢				
第4回	回復期理学療法の概要、車いす移乗と操作				
第5回	摂食嚥下障害				
第6回	症例検討				
第7回	筋緊張促通・抑制の理論				
第8回	片麻痺の歩行				
第9回	プッシャー症候群、ADL動作				
第10回	肩関節亜脱臼、肩手症候群				
第11回	CI療法・高次脳機能障害				
第12回	維持期理学療法の概要・ガイドライン・クリティカルパス				
第13回	認知症の概要と対応・理学療法				
第14回	頭部外傷の概要と理学療法				
第15回	脳腫瘍の概要と理学療法				
成績評価基準					
前期・後期にそれぞれ筆記試験を実施する。60点に満たない場合は再試験を行う。					
教科書					
久保俊一,安保雅博 総編集:脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト. 医学書院, 2021 千田富義,高見彰淑 編集:リハ実践テクニク 脳卒中. 第3版, メジカルビュー社, 2017					
参考書					
千住秀明 監修,山元総勝 編集:理学療法学テキスト IV 中枢神経疾患の理学療法. 第2版, 神陵文庫, 2009 原寛美,吉尾雅春 編集:脳卒中理学療法の理論と技術. 第4版, メジカルビュー社, 2022					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	中枢神経治療学演習			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
脳血管障害を中心とした中枢神経障害に対する急性期から維持期までの治療や理学療法、予防について理論を踏まえた実践を学習するもの。					
GIO (一般目標)					
中枢神経障害に対する理学療法手技の基本を習得する。					
SBO (行動目標)					
・急性期、回復期、維持期における基本的理学療法を理解し、実施できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	中枢神経障害の評価			第16回	筋緊張促通・抑制手技
第2回	運動機能の評価			第17回	荷重刺激と装具
第3回	脳血管障害の総合的評価			第18回	歩行練習
第4回	ポジショニング・体位変換			第19回	応用歩行練習
第5回	関節可動域運動			第20回	ADL動作の理学療法
第6回	座位練習 (ベッド上～端坐位)			第21回	ADLにおける福祉用具
第7回	座位練習 (端坐位～車椅子)			第22回	プッシャー症候群、肩の理学療法
第8回	シーティング			第23回	運動失調に対する理学療法
第9回	起き上がり練習			第24回	座位練習・起き上がり練習
第10回	車椅子への移乗動作と操作練習			第25回	立ち上がり練習・荷重練習
第11回	立ち上がり練習			第26回	車椅子・歩行
第12回	立位バランス・下肢の理学療法			第27回	症例検討
第13回	摂食嚥下障害の理学療法			第28回	症例検討
第14回	摂食嚥下障害の理学療法			第29回	症例検討
第15回	ポジショニング・関節可動域運動			第30回	起き上がり～移乗動作
成績評価基準					
前期と後期にそれぞれ実技試験を実施する。60点未満の場合は再試験を行う。 通年成績評価は前期と後期を総合的に判断する。					
教科書					
久保俊一,安保雅博 総編集:脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト. 医学書院, 2021 千田富義,高見彰淑 編集:リハ実践テクニク 脳卒中. 第3版, メジカルビュー社, 2017					
参考書					
千住秀明 監修,山元総勝 編集:理学療法学テキスト IV 中枢神経疾患の理学療法. 第2版, 神陵文庫, 2009 原寛美,吉尾雅春 編集:脳卒中理学療法の理論と技術. 第4版, メジカルビュー社, 2022					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	運動器疾患治療学			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
各疾患の関節等の解剖学・運動学は復習しておいて下さい。実際にリハビリするイメージができるまで理解を深めていきましょう。					
GIO (一般目標)					
運動器における各運動器疾患の理学療法をイメージし、治療を選択できるようになる。					
SBO (行動目標)					
各運動器疾患の発生機序・病態を理解し、理学療法の方針を説明できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	総論				
第2回	上腕骨近位端骨折の理学療法				
第3回	胸郭出口症候群の理学療法				
第4回	肩関節周囲炎の理学療法				
第5回	上腕骨顆上骨折の理学療法				
第6回	橈骨遠位端骨折の理学療法				
第7回	手部の疾患に対する理学療法				
第8回	頚椎症の理学療法				
第9回	胸椎・腰椎圧迫骨折の理学療法				
第10回	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法				
第11回	腰部脊柱管狭窄症の理学療法				
第12回	大腿骨近位部骨折の理学療法				
第13回	変形性膝変関節症の理学療法				
第14回	人工関節の理学療法				
第15回	関節リウマチの理学療法				
成績評価基準					
定期試験100% 前期・後期の定期試験の結果を総合し、成績とする。					
教科書					
・神野哲也 監：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ。羊土社，2012					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期・外来リハにおいて臨床経験をもつ理学療法士が、運動器疾患に対する疾患の捉え方や治療法について、模擬事例を提示しながら講義を行う。					

授業科目名	運動器疾患治療学演習			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
各疾患の関節等の解剖学・運動学は復習しておいて下さい。実際にリハビリするイメージができるまで理解を深めていきましょう。					
GIO (一般目標)					
運動器における各運動器疾患の理学療法をイメージし、治療を実施できるようになる。					
SBO (行動目標)					
各運動器疾患の発生機序・病態を理解し、理学療法のプログラム立案を立案できるようになる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	総論			第16回	胸椎・腰椎圧迫骨折の理学療法①
第2回	上腕骨筋端骨折の理学療法①			第17回	胸椎・腰椎圧迫骨折の理学療法②
第3回	上腕骨筋端骨折の理学療法②			第18回	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法①
第4回	上腕骨顆上骨折の理学療法③			第19回	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法②
第5回	胸郭出口症候群の理学療法①			第20回	腰部脊柱管狭窄症の理学療法①
第6回	胸郭出口症候群の理学療法②			第21回	腰部脊柱管狭窄症の理学療法②
第7回	上腕骨顆上骨折の理学療法①			第22回	腰椎分離すべり症の理学療法①
第8回	上腕骨顆上骨折の理学療法②			第23回	大腿骨近位部骨折の理学療法①
第9回	橈骨遠位端骨折の理学療法①			第24回	大腿骨近位部骨折の理学療法②
第10回	橈骨遠位端骨折の理学療法②			第25回	大腿骨近位部骨折の理学療法③
第11回	手部の疾患に対する理学療法①			第26回	変形性膝関節症の理学療法①
第12回	手部の疾患に対する理学療法②			第27回	変形性膝関節症の理学療法②
第13回	頸椎症の理学療法①			第28回	関節リウマチの理学療法①
第14回	頸椎症の理学療法②			第29回	関節リウマチの理学療法②
第15回	まとめ			第30回	まとめ
成績評価基準					
定期試験100%					
前期・後期の定期試験の結果を総合し、成績とする。					
教科書					
・神野哲也 監：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ。羊土社、2012					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期・外来リハにおいて臨床経験をもつ理学療法士が、運動器疾患に対する疾患の捉え方や治療法について、模擬事例を提示しながら講義を行う。					

授業科目名	脊髄損傷治療学			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ タツキ 長住 達樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
前期は脊髄損傷による障害・合併症を学び、後期は脊髄損傷の移動方法、日常生活方法を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
脊髄損傷の医学的な障害像や治療法の基礎的な知識をもとに、各損傷レベルに応じた移動手段や日常生活指導を実施できる。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 脊髄損傷の障害像、合併症、評価方法を理解する 各損傷レベルに応じた移動手段、日常生活方法などを理解したうえで、脊髄損傷者に方法を説明し、実演できるようになる。 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	脊髄の構造と機能			第16回	四つ這い動作・立ち上がり動作
第2回	脊髄損傷の評価 (一般的評価とASIA, Zancolliの分類)			第17回	移乗動作 (車いすとベッド、トイレ)
第3回	脊髄損傷の理解に必要な残存筋と髄節			第18回	移乗動作 (車いすとベッド、トイレ)
第4回	合併症と随伴症状 (褥瘡)			第19回	脊髄損傷患者の車いすの選択
第5回	合併症と随伴症状 (排尿・排便障害)			第20回	脊髄損傷者の車いす操作の指導
第6回	合併症と随伴症状 (筋骨格系と自律神経反射)			第21回	脊髄損傷者の車いす操作の指導
第7回	その他の合併症			第22回	立位・歩行練習
第8回	急性期のリハビリテーション			第23回	立位・歩行練習
第9回	急性期のリハビリテーション			第24回	日常生活動作
第10回	脊髄損傷の肺理学療法			第25回	日常生活動作
第11回	脊髄損傷の肺理学療法			第26回	日常生活動作 (その他のADL)
第12回	回復期のリハビリテーション			第27回	不全損傷の評価と理学療法
第13回	回復期のリハビリテーション (プッシュアップ)			第28回	不全損傷の評価と理学療法
第14回	回復期のリハビリテーション (寝返り)			第29回	不全損傷の評価と理学療法
第15回	回復期のリハビリテーション (起き上がり)			第30回	不全損傷の評価と理学療法
成績評価基準					
前期末と後期末にそれぞれ実技試験と筆記試験を行う					
通年成績は前期50%、後期50%で処理する					
教科書					
岩崎洋 編著：脊髄損傷理学療法マニュアル。第3版，文光堂，2020					
藤縄光留 編集：脊髄損傷に対するPT・OTアプローチ 臨床経過モデルに基づく介入。メジカルビュー社，2022					
参考書					
実務経験に関する内容					
多くの病院やクリニックで勤務経験がある。入院・外来で担当した物理療法の経験とともに演習を提供できる。					

授業科目名	小児疾患系治療学			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ タツキ 長住 達樹
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
小児疾患の症状や障害を理解し、各疾患に適応する理学療法治療を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
正常発達、姿勢反射を基礎とし、脳性麻痺を他の小児疾患の評価および治療を説明できるようになる。					
SBO (行動目標)					
正常発達、姿勢反射などを再学習し、各疾患の病態・障害などの異常発達を知り、理学療法に必要な評価および治療方法について学ぶ。					
授業回数	授業内容				
第1回	正常運動発達 (姿勢、粗大運動、微細運動)				
第2回	発達・運動発達の評価と正常運動発達				
第3回	運動発達の理論/姿勢反射と運動発達				
第4回	異常姿勢反射と運動発達障害				
第5回	脳性麻痺総論				
第6回	痙直型四肢麻痺児の理学療法				
第7回	痙直型両麻痺児の理学療法				
第8回	痙直型片麻痺児の理学療法				
第9回	純粹型アテトーゼ型麻痺児の理学療法				
第10回	緊張型アテトーゼ型麻痺児の理学療法				
第11回	重度心身障害の療育と理学療法				
第12回	筋ジストロフィー症の分類及び特徴と理学療法				
第13回	筋ジストロフィー症の分類及び特徴と理学療法				
第14回	その他の小児疾患 (二分脊椎、神経発達症) の理学療法				
第15回	低出生体重児・ハイリスク児・低筋緊張児、ダウン症候群、知的障害児の理学療法				
成績評価基準					
定期試験 100%					
教科書					
田原弘幸,大城昌平,小塚直樹 編集: シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト. 改訂第3版, 南江堂, 2018					
参考書					
実務経験に関する内容					
多くの病院やクリニックで勤務経験がある。そこでの経験をもとに小児疾患への理学療法の考え方を中心に提供できる。					

授業科目名	内部障害治療学			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ チ トシ 上 年
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
呼吸器疾患および循環器疾患を中心として理学療法による取り組みを講義および必要な限りで実習より学ぶ。					
GIO (一般目標)					
呼吸器・循環器のリハビリテーション2年時の呼吸器、循環器など内科学とも関連して理解する。					
SBO (行動目標)					
これまで学んできた生理学・解剖学・内科学を復習しつつ講義に臨むこと					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	呼吸器系の解剖・生理			第16回	心電図①
第2回	呼吸機能の評価①			第17回	心電図②
第3回	呼吸機能の評価②			第18回	循環器疾患の活動参加の評価
第4回	間質性肺疾患			第19回	運動負荷試験と理学療法
第5回	呼吸理学方法 (排痰法・喀痰吸引)			第20回	回復期の理学療法
第6回	運動療法とADL			第21回	包括的な心臓リハビリテーション
第7回	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)			第22回	代謝障害 (膵臓・肝臓・腎臓)
第8回	間質性肺疾患			第23回	代謝系の生理・生化学
第9回	呼吸器合併症			第24回	糖尿病
第10回	胸腹部外科周術期			第25回	糖尿病の合併症
第11回	心臓その他循環器系の解剖・生理			第26回	2型糖尿病に対する運動療法
第12回	虚血性心疾患			第27回	1型小児・高齢糖尿病に対する運動療法
第13回	心不全			第28回	糖尿病の運動療法と足病変
第14回	末梢動脈疾患			第29回	腎臓疾患
第15回	循環疾患の画像評価			第30回	腎臓疾患と人工透析と理学療法
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
<ul style="list-style-type: none"> ・高橋哲也,神津玲,野村卓生 編集:内部障害理学療法学.第2版,医学書院,2020 ・Torsten B.Moeller,Emil Reif 著.町田 徹 監修.小林友香 訳:CT・MRI画像解剖ポケットアトラス 第4版 2巻 胸部・心臓・腹部・骨盤.メディカル・サイエンス・インターナショナル,2015 ・医療情報科学研究所 編集:ビジュアルノート.第5版,MEDIC MEDIA,2016 					
参考書					
亀田メディカルセンター 編集:リハビリテーション リスク管理ハンドブック.第4版,メジカルビュー社,2020					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持ち、心臓リハビリテーション指導士認定を取得している理学療法士が講義・演習を行う。					

授業科目名	神経筋疾患治療学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
神経筋疾患（神経難病）の症状や障害を理解して、各疾患に応じた理学療法治療を学ぶ。					
GIO（一般目標）					
神経筋疾患（神経難病）の症状、評価方法を知り、各症状や障害に応じた理学療法治療を実施できるようになる。					
SBO（行動目標）					
パーキンソン病をはじめ、他の神経筋疾患（神経難病）の症状・障害に応じた理学療法について理解し、説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	パーキンソン病を理解するために必要な基礎的知識				
第2回	パーキンソン病の症状				
第3回	パーキンソン病の評価				
第4回	パーキンソン病の治療と理学療法				
第5回	小脳の基礎と脊髄小脳変性症の病態				
第6回	脊髄小脳変性症の評価と理学療法				
第7回	脊髄小脳変性症の評価と理学療法				
第8回	筋萎縮性側索硬化症の病態と評価				
第9回	筋萎縮性側索硬化症の症状と理学療法				
第10回	多発性硬化症の症状				
第11回	多発性硬化症の理学療法				
第12回	ギラン・バレー症候群の症状と理学療法				
第13回	ギラン・バレー症候群の症状と理学療法				
第14回	重症筋無力症の症状と理学療法				
第15回	多発性筋炎・皮膚筋炎の症状と理学療法				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点未満の場合は再試験を実施する。					
教科書					
潮見泰藏 編：PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版. 羊土社, 2024					
参考書					
潮見泰藏 編著：ビジュアルレクチャー 神経理学療法学. 医歯薬出版, 2017					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	スポーツ健康増進学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト 山本 圭彦 タカヒコ
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
基本的なスポーツ障がいと外傷に対する理学療法を理解する					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 基本的なスポーツ障がいと外傷に対する理学療法が実践できる 健康増進に関する知識を深め、現在社会へ対策を理解する 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> スポーツ分野に興味を持ち、学習意欲が向上する 整形外科疾患の理学療法へ応用ができるようになる 自ら健康増進に関する行動が取れるようになる 					
授業回数	授業内容				
第1回	スポーツに関わる理学療法士の役割。スポーツ障がいと外傷の違い。				
第2回	異常アライメントと下肢疾患との関係				
第3回	異常アライメントに関する身体的機能				
第4回	投球障害の病態、メカニズム				
第5回	投球障害に対する検査				
第6回	投球障害に対する理学療法				
第7回	投球障害に対する理学療法				
第8回	成長期障害				
第9回	成長期障害に対する検査				
第10回	成長期障害に対する理学療法				
第11回	膝関節疾患（靭帯損傷、半月板損傷）の病態、メカニズム				
第12回	膝関節疾患（靭帯損傷、半月板損傷）の理学療法				
第13回	膝関節疾患（靭帯損傷、半月板損傷）の理学療法				
第14回	足関節捻挫に対する検査				
第15回	足関節捻挫に対する理学療法				
成績評価基準					
定期試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
赤坂清和：PT・OTビジュアルテキスト スポーツ理学療法学。第1版，羊土社，2024					
神野哲也 監：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ。羊土社，2012					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関（病院・クリニック）で勤務してきた。また一部、介護保険領域（通所ケア・訪問リハビリテーション）も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	地域理学療法学			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ 千 年
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
対象者が地域で生活するための支援や、理学療法士の役割・活動について学ぶ。					
GIO（一般目標）					
医学モデルから生活モデルへの転換をはじめ、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的知識を修得する。					
SBO（行動目標）					
地域理学療法における理学療法士の役割や理学療法の実際について説明できる。 災害時や国際支援、健康増進、介護予防など視野を広げた医療機関以外での多くの活動について説明・実施できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	地域リハビリテーションの概念				
第2回	関連制度と関連法規				
第3回	住環境と福祉用具				
第4回	地域におけるリスクマネジメント				
第5回	地域リハビリテーションプロセス				
第6回	訪問系理学療法				
第7回	通所系理学療法				
第8回	施設系理学療法および学校で必要なリハビリテーション技術				
第9回	緩和ケア・終末期医療における理学療法				
第10回	サルコペニアと介護予防				
第11回	認知症予防				
第12回	転倒予防				
第13回	行政における療法士の役割（行政から借用し高齢者疑似体験）				
第14回	地域の防災と災害支援（適宜視聴覚教材を使用：東日本大震災ボランティア活動）				
第15回	地域で求められる療法士の起業				
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
重森健太,横井賀津志 編：PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学. 第2版, 羊土社, 2019					
参考書					
瀬川浩 著：実践リハビリテーション・シリーズ 認知症のリハビリテーション ケア、薬物療法から施設入所まで. 金原出版, 2015					
実務経験に関する内容					
医療・介護に従事した経験を持ち、その間に訪問理学療法と院内業務を兼務していた観点から地域への取り組みを概説する。					

授業科目名	生活環境学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
障害者や高齢者が自宅を中心とした地域での生活が継続できるよう、環境整備についての施策等を理解し、住環境整備の知識と技術を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
対象者の自宅生活を中心とした地域における生活を支援するための知識・技術を習得する。					
SBO (行動目標)					
対象者の自宅での生活支援における法律や施策について説明できる。 住環境(生活環境)の課題を把握する評価と改善に向けての改修について立案できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	総論：リハビリテーションと生活支援、生活環境整備における理学療法士の役割				
第2回	理学療法士に必要な住宅改修の視点				
第3回	高齢者・障害者を取り巻く生活状況				
第4回	日本式住宅(木造住宅)の特徴と問題点				
第5回	生活環境整備に関する法的制度				
第6回	基本的な建築図面の読み方・書き方				
第7回	生活環境整備の進め方				
第8回	段差・スペース・床材				
第9回	手すり・建具				
第10回	玄関・アプローチ・廊下・階段				
第11回	トイレ・浴室				
第12回	台所・食堂・居間・寝室				
第13回	住宅改修の症例ワーク				
第14回	住宅改修の症例ワーク				
第15回	住宅改修案の検討				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点未満の場合は再試験を実施する。 成績は、筆記試験70% ワーク課題のレポート(30%)で評価する。					
教科書					
細田多穂 監修：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト。改訂第2版，南江堂，2020					
参考書					
必要に応じて資料を配布する。					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	臨床地域実習			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ 瀬上 千年
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	2	時間数	90
授業概要					
臨床現場において地域包括システムおよびシステムケアについて積極的、自発的に参加し学んでほしい。					
GIO (一般目標)					
理学療法士が施設(地域)で求められる役割について理解する。 地域における多職種協働アプローチを理解する。					
SBO (行動目標)					
地域における理学療法の役割を実習指導者のある程度の助言・指導のもと、対象者の問題点を明確にしていく考え方を身につける。					
授業回数	授業内容				
	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションでの実習 80時間 臨床地域実習事前・事後に関するセミナー及び評価 10時間 * 臨床実習は45時間で1単位とします。				
成績評価基準					
臨床地域実習評価表(100%)					
教科書					
教科書指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					

授業科目名	臨床短期実習			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ 瀬上 千年
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	3	時間数	135
授業概要					
見学実習、評価実習を踏まえて、患者様への対応、評価、理学療法プログラム立案までを行う。					
GIO (一般目標)					
患者様の状況や主訴、demanddを理解した理学療法プログラム立案ができる。					
SBO (行動目標)					
患者様の評価結果から問題点を抽出することができる。 患者様の評価結果から統合と解釈ができるようになる。					
授業回数	授業内容				
	臨床短期実習施設での実習 120時間 臨床短期実習事前・事後に関するセミナー及び評価 15時間				
成績評価基準					
臨床短期実習評価表 (100%)					
教科書					
指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					

4年次

開講科目

授業科目名	臨床学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカヒコ ミヤケ アヤコ イシハラ ナオキ 山本 圭彦・三宅 綾子・石原 直樹 フチガミ チ トシ ナガズミ タツキ ナカシマ クルミ 淵上 千年・長住 達樹・中島 久瑠美
開講学年	4年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
臨床実習に求められる疾患の病態、理学療法を再学習する。					
GIO (一般目標)					
臨床実習に必要な知識・コミュニケーションスキルを身に付けることができる。					
SBO (行動目標)					
解剖学・生理学・運動学・疾患の症状・評価・治療をグループディスカッションで説明できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	長期臨床実習Ⅰ期	症例報告		第16回	PT評価(統合と解釈)
第2回	長期臨床実習Ⅰ期	症例報告		第17回	骨関節(上肢)
第3回	長期臨床実習Ⅰ期	症例報告		第18回	骨関節(下肢)
第4回	長期臨床実習Ⅰ期	症例報告		第19回	骨関節(体幹)
第5回	長期臨床実習Ⅰ期	症例報告		第20回	中枢神経障害(高次脳)
第6回	長期臨床実習Ⅰ期	症例報告		第21回	中枢神経障害(評価)
第7回	長期臨床実習Ⅱ期	症例報告		第22回	中枢神経障害(治療)
第8回	長期臨床実習Ⅱ期	症例報告		第23回	脊髄損傷(評価)
第9回	長期臨床実習Ⅱ期	症例報告		第24回	脊髄損傷(治療)
第10回	長期臨床実習Ⅱ期	症例報告		第25回	補装具(上肢・体幹)
第11回	長期臨床実習Ⅱ期	症例報告		第26回	補装具(下肢・大腿義足)
第12回	長期臨床実習Ⅱ期	症例報告		第27回	補装具(下腿義足)
第13回	解剖学(筋)			第28回	内部障害(呼吸器・評価・治療)
第14回	運動学(歩行)			第29回	内部障害(心疾患・評価・治療)
第15回	生理学(神経筋)			第30回	内部障害(糖尿病・腎疾患)
成績評価基準					
筆記試験100%					
教科書					
岡田慎一郎ら 著:理学療法 臨床実習サポートブック. 医学書院, 2015					
参考書					
実務経験に関する内容					
病院・クリニック・訪問リハでの臨床経験を持った教員が事例より、必要な知識を提供する。					

授業科目名	総合理学療法学演習			(フリガナ) 担当教員名	ナガズミ タツキ ナカシマ クルミ フチガミ チトシ 長住 達樹 中島 久瑠美 洲上千年
開講学年	4年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	1	時間数	30
授業概要					
様々な疾患・障害の症例検討をシェア学習を行うことで、臨床実習に生かす。 授業形態はPBL方式で事前学習からグループ内発表、グループディスカッション形式で行う。					
GIO (一般目標)					
複数疾患を持つ患者さんに対する知識と自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培う。					
SBO (行動目標)					
①様々な疾患の症状を統合して理解する。 ②様々な疾患のリスクを統合して理解する。					
授業回数	授業内容				
第1回	運動器疾患および既往疾患の知識の整理 (シェア学習)				
第2回	運動器疾患の評価からの統合と解釈 (グループディスカッション)				
第3回	運動器疾患および既往疾患からの問題点の列挙 (グループディスカッション)				
第4回	運動器疾患および既往疾患からのリスク管理 (グループディスカッション)				
第5回	運動器疾患および既往疾患の理学療法 (グループディスカッション)				
第6回	脳血管障害および既往疾患の知識の整理 (シェア学習)				
第7回	脳血管障害の評価からの統合と解釈 (グループディスカッション)				
第8回	脳血管障害および既往疾患からの問題点の列挙 (グループディスカッション)				
第9回	脳血管障害および既往疾患からのリスク管理 (グループディスカッション)				
第10回	脳血管障害および既往疾患の理学療法 (グループディスカッション)				
第11回	呼吸器・循環器障害に対する知識の整理 (シェア学習)				
第12回	呼吸器・循環器障害の評価からの統合と解釈 (グループディスカッション)				
第13回	呼吸器・循環器障害からの問題点の列挙 (グループディスカッション)				
第14回	呼吸器・循環器障害からのリスク管理 (グループディスカッション)				
第15回	呼吸器・循環器障害の理学療法 (グループディスカッション)				
成績評価基準					
グループ発表60%・授業態度40%					
教科書					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、演習を行う。					

授業科目名	臨床総合実習			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	4年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	16	時間数	720
授業概要					
学内で学習した知識・技術を臨床の場で再確認し、さらに統合するとともに、臨床でなければ学ぶことのできない対象者への対応、および他職員との人間関係を学習する場である。					
GIO (一般目標)					
基本的理学療法の体験・実践を通して、自己の理学療法観を育成できる。					
SBO (行動目標)					
問題抽出及び目標設定から理学療法治療・指導計画の立案がある程度の助言・指導のもと出来る。理学療法治療・指導対応をある程度の助言・指導のもと行うことが出来る。					
授業回数	授業内容				
I 期	臨床実習施設での臨床実習 320時間		} 40時間		
	臨床実習前に関するセミナー及びOSCE、CBT 実習後の実習報告				
II 期	臨床実習施設での臨床実習 320時間		} 40時間		
	臨床実習後OSCE、CBT、実習報告				
成績評価基準					
OSCE、多肢選択筆記試験、長期実習評価表により総合的に評価する					
教科書					
参考書					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉など、臨床現場における理学療法士の指導の元、対象者への評価・治療を見学・共同参加・実施して学ぶ実習を行う。					